大正六年六月二十八日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正六年十一月一日發行（大正六年十月二十七日印刷納本）

友愛婦人 第十一號

友愛婦人

十一月號

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛婦人趣意

世の中は男ばかりの世界ではなく男ばかりで保つて行くものではありません。人間の半分は女で、女の心懸けやう、働きやう一つによつて、此世をば明るくもし、暗くもすることが出來るのであります、友愛會は勞働の品位を高め日本の勞働者の境遇を改めやうとして起つた團體であります。が之まで重に男の人達のために働いて參りました。併し男と同じやうに工場や其他の所で働いて居る婦人又は男を助けて家庭の内で働いて居る婦人方のために、何事か致さねばならぬと云ふ感じが此頃特に著しくなりました。そこで玆に友愛會に婦人部を設け、追々といろ〳〵の事業をしたいと思ふのであります。

友愛會婦人部規則

第一條 本會は之を友愛會婦人部と稱し本部を其中心とし各支部內に其地方々々の事務所を置くことゝ致します。

第二條 本部に納める誌代は十錢であります。

第三條 本會は左の如き事業を行ひます。

一、出版部 雜誌『友愛婦人』を每月一回發行し其他有益な書物を出版致します。

二、講演部 度々講話會を開き餘興を加へて會員の修養娛樂の便を圖ります。

三、人事相談部 會員の爲めに手紙又は面會等の方法に依り種々の相談事に應じます。

四、表彰部 會員の中にて人の模範になる行ひをした人のある時は或は賞金を贈り或は雜誌に寫眞を揭げて其名譽を表彰致します。

五、內職奬勵部 家庭內の婦人の爲めに種々の內職の敎授又は奬勵を致します。

其他必要ある時は右の外諸種の事業を創めることに致します、

第四條 本會に入會を望み又は本誌の讀者とならん事を望まるゝ方は規定の料金を添へ幹事又は委員まで申出られたいのであります。

第五條 右の外は適宜に行ふことゝ致します。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

みどり看護婦會

看護婦

□本會は、廣く病院、醫家、患家の需めに應じて、看護婦を派遣す

□御申込は、電話その他便宜の方法に依られたし

産婆

□本會には、熟練なる産婆を置きて、姙婦診察、分娩取扱の需めに應ず。但貧困の御方には特に無料にて取扱ふ

□御申込は看護婦に於けると同じ

みどり看護婦會
東京市本所區緑町一ノ四二
電話本所五八番

みどり看護婦會附屬 看護婦見習募集

(一) 目的

看護學及實地を修業せしめ、別科として普通學の薫育を施すものとす

(二) 採用

志願者の資格は、年齢十五歳以上、二十歳迄とし、身體健強、尋常小學卒業のものたるを要す。

(三) 修業年限

滿三ヶ年にして、費用は一切本會の貸費支給なるを以て、食料、被服等毫も父兄を煩すことなし。
但し此期間中、本會の許可を經ず、中途にして退學を爲したる時は、養成中の費用は、保證人に於て相當の辨償を爲すべきものとす。

(四) 義務年限

修業三ヶ年後、滿一ヶ年と定む。
但し、此期間中は、本會の指導に隨ひ、各其職務に從事し、其獲得したる勞酬の十分の六は、本會養成中の費用に編入し、十分の四を以て、各自其供與を受くるものとす

(五) 行動

在學勤務中は、刻苦精勵、能く本會の命令を恪守し、特に遊惰放逸の惡俗を戒むべきものとす。

(六) 募集人員 三十名

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

『友愛婦人第十一號』目次

表紙

秋の少女……本多庄太郎筆

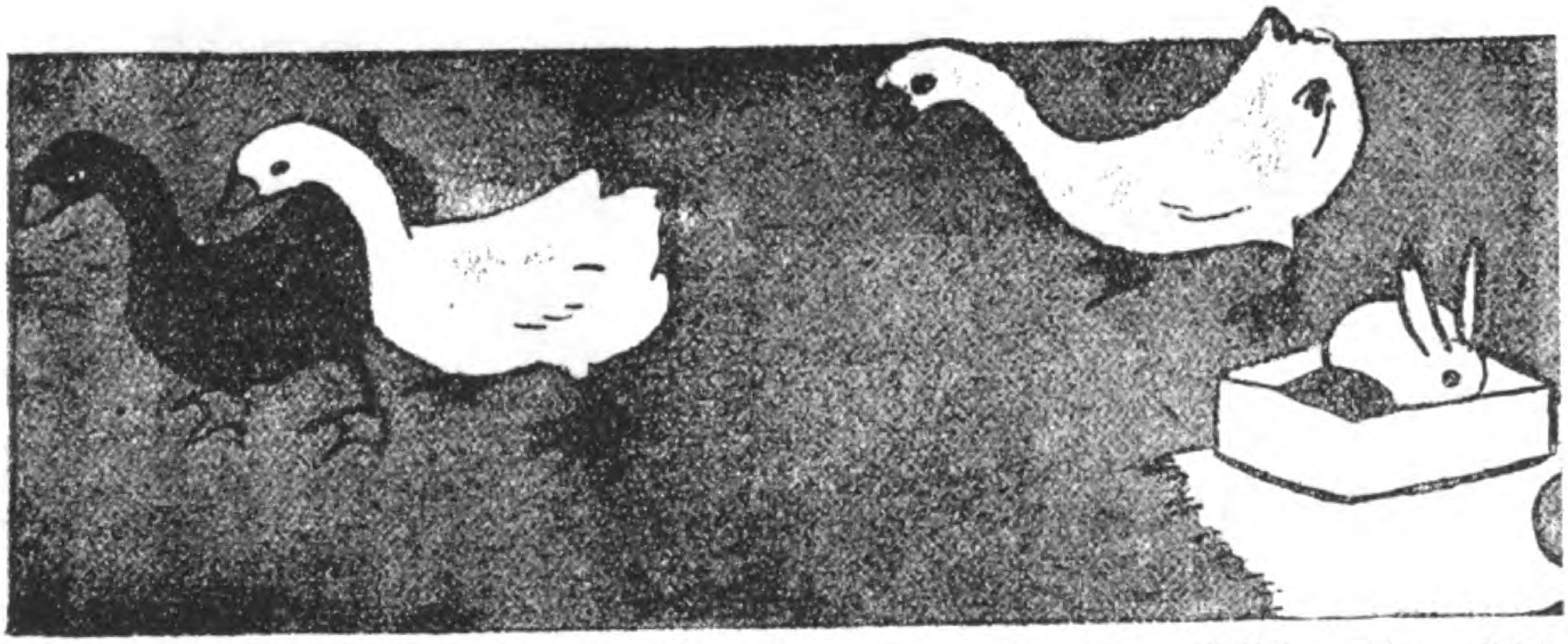
卷頭

秋の唄……

本欄

財布のしめくゝり……友愛會會長　鈴木文治……
洋行おみやげ……工學博士子爵　大河内正敏……八
グレース・アボット女史……油谷治郎七……一二
暴風雨……記者……一三
東京電氣川崎工塲婦人講演會……一四
看護婦の養成……みどり看護婦會々長　小山清……一八
赤ちやんの展覽會……記者……一九

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



歴史物語 國の爲めか家庭の爲めか……上野あき子……二〇
衣服のおはなし……小野玉枝……二四
教育講談 紀文二代（續き）……三浦樂堂……二六
秋のみたしなみ……婦人美容研究會々長 小口みち子……三一
十一月の手紙……記者……三三
鼠と雀（オトギバナシ）……三四
私など何も出來ませんもの……記者……三七
特別懸賞募集……三八
懸賞判じ繪 募集と發表……記者……四〇
友愛文藝……四一
編輯室より……四九
小說 暴風雨の後……平澤紫魂……五〇
婦人部便り娯樂室……六〇

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛婦人記者　坂本正雄著

【定價金卅錢】郵税四錢

二十世紀之男女

友愛會員は本部へ直接申込めば一册送料共二十四錢とす（一切前金）

大好評

進歩的宗敎の眞締と、婦人問題の新研究と、立憲政治の根本義と、社會政策の大理想と、廿世紀男女の覺悟とを青年著者が聖靈に滿されて記述せるの書也

朝日新聞は本書を眞面目なる書なりとし、讀賣新聞は本書を興味ある書なりと做せり。浮田法學博士は著者を以て着實而も新らしき青年なりと紹介し、三並敎授は著者を以て徹底的信仰を持するの人なりと讃せり。更に茅原華山氏は著者に一書を與へて世の浮薄なる青年を呪ふと共に、生活問題を解決せんとせり。右三氏の文章は本書の卷頭卷尾を飾り錦上更に花を添へたるの觀あり。

發行所　東京銀座　警醒社書店　振替東京五五三番　電話新橋一五八七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛婦人 （十一月號）

秋の唄

わしが在所のお宮のお庭
風も無いのに銀杏の樹から
はらりはらりと葉が落ちる
ハラッハラッハラリッとなあ

落ちた銀杏の葉よりどり五文
お前こゝのつ私はなゝつ
それから十とせは早や過ぎた
ハラッハラッハラリッとなあ

落ちる銀杏の葉もこゝのつなゝつ
十とせの前がありありと見える
お前何所で暮らすやら
ハラッハラッハラリッとなあ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

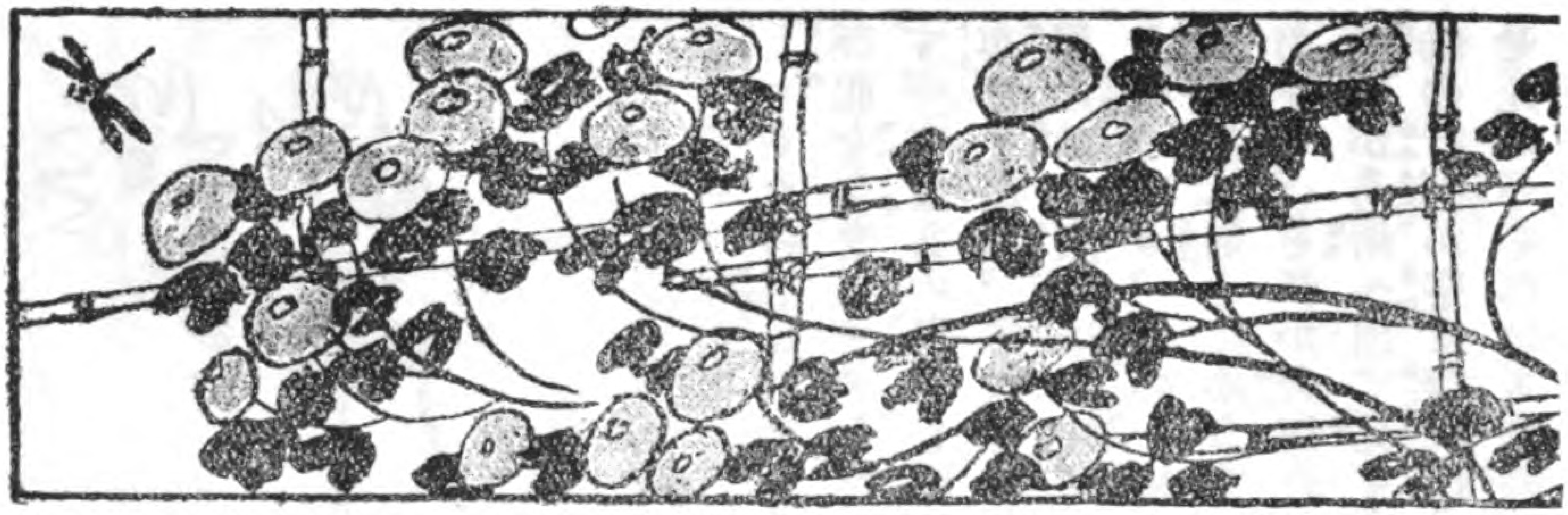
財布の締括り

友愛會々長　鈴木文治

暫く前の事でありました。或る日一人の知人の職工の人が私を訪ねて「何うも同じ會社に勸めて、四拾圓五拾圓といふ給料を取つて居ても、事務員の方はチヤンと小奇麗な生活をして居るが、私共は年が年中、貧乏のし通しで誠に困つたものです」と嘆息したことがありました。これは何の爲でありませう。取りも直さず、財布の締めくゝりが付かないからではありますまいか。

人の生活には際限がありません。月に拾圓の生活も出來れば千圓の生活も出來るものです。馬車に自働車に、侍女書生と侍べらせても不足に思はるれば、九尺二間の賤が伏屋にも、凌げば凌がるゝものであります。勿論それかといふて、たゞ生活を引しめるといふ引込思案にばかりになつても困りますが、去り

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



とて奢り放題天井知らず、勝手氣儘の亂費放埒を極めては、それこそ金の成る木を持つて居る家でも、たまつたものではありません。

人の一生の中で、最も恐ろしいことは、經濟の亂脈といふことであります。餘程偉い人であつても、生活の土臺が定つて居ませんと、仕事の上に十分の精力を出すことは出來ないのですあちらも借金、こちらにも借金、そして折角働いて得た金は右から左へと利子に取られて仕舞ふやうでは、働く勇氣も元氣も出るものではないので、信用といふものは全くなくなつて仕まひます。出すものは出す、取るものは取る、一家の入費は一ケ月に凡そどの位、收入はどれ丈け、それをどういふ風に切盛をするか、そこに一家の主婦の腕前が表はれるのであります。

財布の締括りといふことは、穴勝ち無暗に吝嗇にすることを申すのではありません。出すべきものは出し、取るべきものは取り、其案配をうまい工合にして世渡りの途を定めて行くことを申すのです。それをするは主人より奥さんの仕事、此事が上手に出來れば、それこそ內助の功のある方と申されませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

洋行おみやげ

（婦人共立育兒會の席上で子爵がお話になられたおみやげばなしです）

工學博士　子爵　大河内正敏

△ロシヤの婦人

ロシヤの都はペテログラードの宿屋で、着いた翌朝眼をさましますとたゞならぬ人聲物音がいたします。丁度あの恐ろしい革命の起つてから三日程後の事ですから、すはこそと思つて、外を見ますと、宿屋の前の廣場は大變な人だかり、旗を押立てたり歌を唄つたり、地の上に跪いて神様に、どうか此革命の思ふ通りにゆきますやうにとお祈りしたりしてゐます。それが大部分御婦人でゐらつしやいます。それから街へ出て見ますと、何所へ行つても示威運動の行列が盛に行はれ、しかも取亂した風はありませんが、それにも御婦人が多勢でありますには驚きました。

△イギリスの婦人

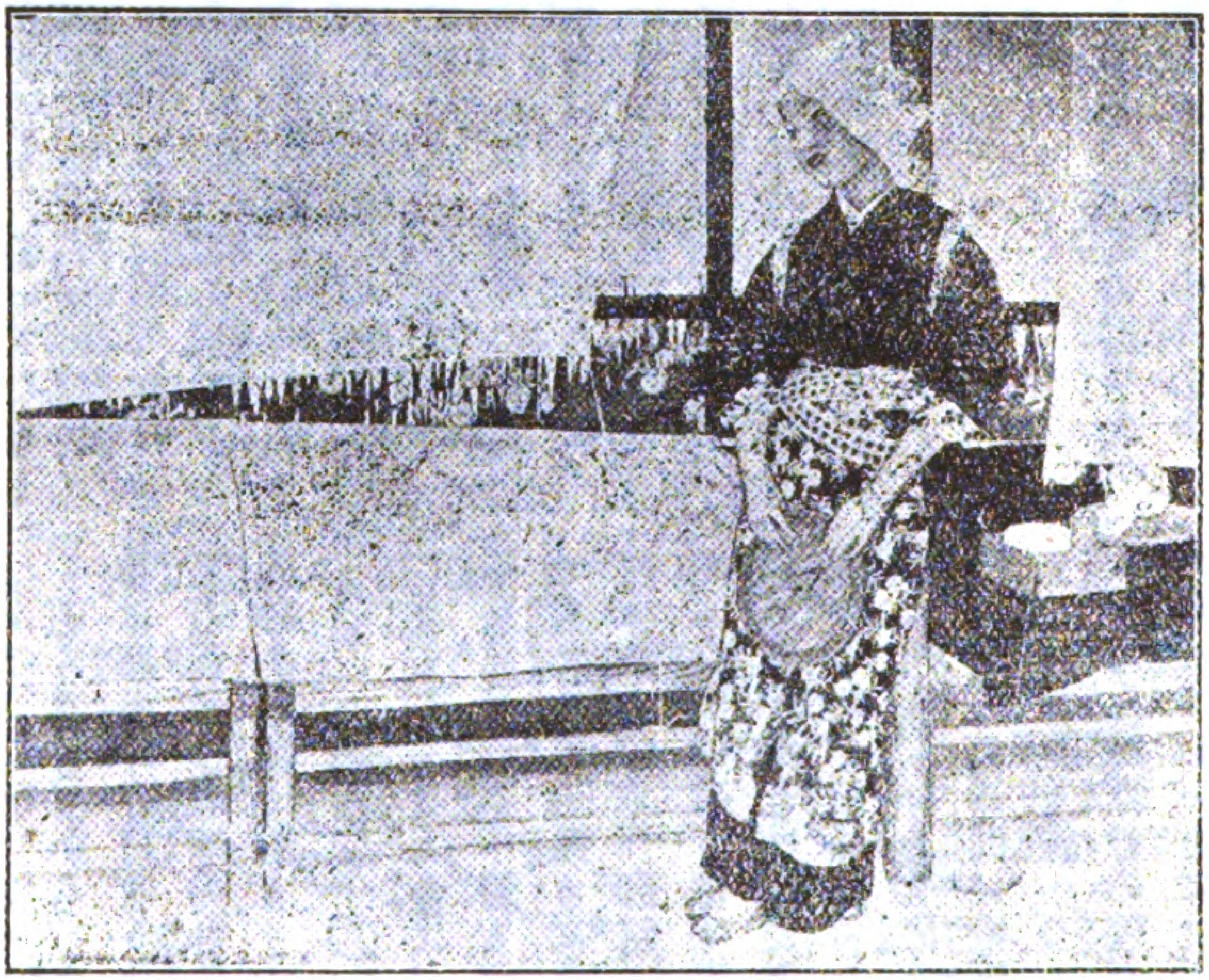
それから瑞典諾威などの國を通つて、イギリスに行きましたら、今迄通つて來た國々とは違つて、イギリス人のいき〱してゐますのに驚かされました。御婦人は特に愉快相でしたが、工場の中にも大勢の工女さんが樂しく働いてゐられました。戰爭前は一人の工女さんもゐなかつたのですが、今では六十人の男の職工に四十人の工女さんと云ふ割合であります。其年頃は十八九から二十三四位迄が一番多ほございます、給料は一週間に日本のお金にして十五圓位とつてゐます、所が悲しい事には工女さんがそ

んなにお金がとれるものだから、品行が惡くなりまして、女だてらに酒屋へ行つてお酒を飲んだり、自分の子をろく／＼育てなかつたりしますのには困つたものです。

△フランスの婦人

フランスに渡つてから先づ感じました事は、喪服を着てゐる御婦人の多い事です、十人逢ふ中に三人迄は眞黒な喪服を着て悲し相に歩いてゐるのには涙ぐまれました。噂に聞きますとフランス人は今迄に百二三十萬人の人が戰爭で殺されました相です。だから何所を歩いてもフランスには若い男はゐません、たま／＼ゐたかと思ふと外國人であつたり、怪我をして戰場から歸つて來た人です。

「私は息子を二人迄殺されました」とか「たつた一人の兄さんを亡くしました」とか云ふ哀れなお話を



あこがれ（文展出品）松村梅叟氏筆

常に私は聞きました。

工場には十人の男工に九十人の割合で工女さんが働いてゐます、其仕事もイギリス所のお話ではありません、男でも出來にくいやうな荒々しい仕事を一生懸命してゐます、だから其怪我をする事は大變なものです、器械の爲めに足をとられたり頭をうつたり、腕を折つたり、何と云ふ悲慘な事でせう。しかも其工女さん達は國の爲め、倒れる迄やると云ふ精神で傍目もふらず働いてゐます、其いぢらしくも健氣な心根を思ひましては思はず涙が零れます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△ドイツの噂

それからイギリスの看護婦が男勝りに働いてゐる戰場だの、イタリヤの山國の山合戰や飛行器合戰を見たりいたしまして、スキツルに行きました。スキツルは戰爭をやつてゐない國でありますゆゑ、敵國のドイツの新聞も來てゐますし、獨逸の噂も聞かれます。其噂に依りますれば、獨逸は今食物に大變困つてゐる相です、殊に小兒の食物に困つて、小兒は見るも哀れに瘠せ衰へてゐる相です、それで獨逸の婦人は其小兒を連れてスキツルに保養に來る。半月位ゐますと、又小兒はもとのやうにまる〳〵と肥りまして、喜んで歸つて行くと聞きましたが、獨逸はまだまだそんなに食物に困つてはゐないと云ふ人もありますから、どちらが眞實か敵國の事故、はつきりとはわかりません。

△アメリカの婦人

戰爭成金のアメリカに行きますと、今迄の國々とはまるで別天地で、婦人の贅澤さには驚くの外ありません。街を歩いてゐる婦人は下女でも絹の服を着てゐます。職工も自働車で工場へ通ふと云ふやうな有樣です、尤もそんな職工は一日に二十圓二十五圓の給料を貰つてゐます。

そんな位だから、其儘にして置くと返つて國の爲めに惡いやうになりはしないかと思つて、其奢侈を防ぐ爲めに戰爭の仲間入をしたのだと云つてゐる人のある位であります。

△日本の婦人

さてそんな工合に、今戰つてゐる國々の哀れな有樣を見て日本へ歸りますと、日本は昔ながらの平和で食物も思ふ通りに食べられますし、何をするにも自由勝手です。御婦人の方々もアメリカに似て來てやゝ贅澤になりはいたしますまいか。もしも此上奢侈の風が增しましたならば、或はアメリカのやうに奢侈を防ぐ爲め戰爭をすると云ふやうな、恐ろしい事にならないとも限りません、日本の婦人が樂しい夢を見てゐる間に歐洲の婦人は今や境遇に迫まられて心も身體も鍛へつゝゐます、戰爭の終つた後、日本の婦人が總ての點で外國の婦人より劣ると云ふやうな厭はしい事になりはいたしますまいか、何卒日本婦人がしつかりと覺悟なされて、御奮鬪する事を希望いたします。

グレース・アボット女史

油谷治郎七

勞働は神聖であります。されど少年時代に長く激き働を強ひますると、健かなる發育を妨げ、身を害ひ心を傷めます。

　其故に文明國は何國でも幼年の勞働を嚴禁し少年の勞働に種々の制限を設けて保護してゐます。

　アメリカでも四十に近い各州では、早くから適宜に少年勞働を取締つてゐましたが、本年九月一日からアメリカ全般を通じて、適用せらるゝ新しい少年勞働保護法ができまして。米國政府の兒童局の一部に少年勞働課と云ふのを設け専ら其法律を勵行して、若き男女勞働者を保護することになりました。

　新しい少年勞働法によりますると大工場と小さき製造所の區別なく年齡十四歲以下の男女は一切働くことを禁じられました。工場に通ふ代りに學校へ行かねばなりませぬ。而して滿十四歲から滿十六歲までの男子と女子で工場に働くものは午前六時から午後七時までの間で、一日八時間だけ働くことゝなりました。夜業は勿論全禁であります。

　此新しい法律を手に握つて、年若き男女を保護する任務を帶び、少年勞働課長となりましたのは、グレース・アボット女史であります。

　アボット女史は、シカゴ市で移民保護同盟と云ふ會の主幹をしてゐられまして、久しく勞働者の友として德望と力量のある婦人であります。千九百八年から十年間シカゴにあるハル、ハウスと云ふ社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會殖民館に住んで、會社や工場や商店に勤むる若き女子の姉のやうになつて、晝となく夜となく心を盡してゐました。本年の初頃「移民と社會」と云ふ本を著しまして、世間にも評判の良い方であります。

アボット女史が新に少年勞働者の保護を爲すにあたつて直ちに影響するものは、現に七歳から十四歳で工場に働いてゐる二萬七千人の男女少年であります。其勞働を禁ずると共に、教育する方法を世話せねばなりませぬ。多くは貧乏だから働かしてゐるのでありますから、學費などはありませぬ。幸にして米國婦人の後援があります、國の將來を思ふ有志の婦人で、米國々防會議の婦人委員である、有力な方々は、全國の婦人團體に勸めて、是等貧き男女少年の教育のために奬學資金を募集してゐます。莫大な金が集ることでありませう。

グレースアボツト女史

更に又、十四歳から十六歳までの男女少年で、八時間の制限のない工場に働いてゐるものが、十二萬人あります、八時間勞働を勵行しますると、是等の人々の經濟のことも考へねばなりませぬ。

アボット女史の親友であるラスロップ女史は兒童局の局長であつて、乳兒の死亡を防ぐことから少年勞働の保護に至るまで、米國將來の國民たるものを保護するために全力を注いでゐます。いろ〳〵の難問を解き反對を破つて功績を擧げやうとする兩女史の働きは、大いに注目すべきものであり又成功を祈ります

アボット女史が申されるに「英國は戰爭に熱中する餘り、將來の國民を慮ることを忘れ、婦人や小兒に激しき勞働を爲さしめたる弊害は近頃明白になつて來ました。米國は此經驗の示すところに氣を付けまして婦人と少年の保護に殊更なる力を注ぐのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲十月一日の暴風雨で日本中で死んだ人は七百七十人、怪我をした人は千三百人、行方不明の人は三百七十四人、流れたり壞れたり、半分壞れたりした家が四萬三千八百七十一戶、船の損害が二千百七十九艘、床の上下に水があがつた數は二十萬四千七百五十四軒、何と云ふ傷ましい事でせう。未だ此外に調べのつかない損害があるかもわかりませぬ、牛なども隨分死にました。牛の死體や鷄や魚の死體、それに人間の死體迄が道傍にあつたを見た時記者は思はず泣きました。▲そんなひどい水害地でも子供等は大喜びで、流れて弱つ

暴風雨

てゐる錦魚やら鯉やらを捕へてゐました。子供ばかりで無く、大人迄がそんなまねをしてゐた人がありました▲そんなのはまあ罪が無い方ですが、なかには人の不幸をつけこんで、米や八百屋モノをめつぽう高く賣りつけた人もありました。平常は三錢位の大根を十錢に賣つた人があります。こんな時につけこんで、何と云ふ憎い事をするのだらうと怒つて、買はないければ食はずにゐるより外に仕方がありませんから、仕方なく／＼みす／＼高い品物を買つた人が隨分あります▲それですから政府でそんな惡い事をしてはならん。惡い事をすゐ゙と罰するぞと云ふおふれを出した爲めに、それからはそんな惡い商人は尠くなりました高く賣つたのをみつかつて罰金とられた人もあります。それとは反對に、被害者にいろ／＼の物を贈つたり、いろいろの便宜を計つたりした人も大勢ゐます。友愛會でも慰安演藝會を月島と本所深川大島等で開きました。思ひがけなくひどい目に逢つた人が、他の人達から慰められた時、其嬉しさはいかばかりでございませう。記者の特に嬉しく感じた事は、一日や二日の未だ水の減らない大島や砂村やの一軒一軒に、マッチと蠟燭とをくばつて歩いた人のあつた事です。金高はあまりかゝりませんが、何と云ふ氣の利いた贈物でせう暗夜に燈火とは全く此事です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京電氣株式會社川崎工場
共勵會主催友愛會

婦人部大會

▲一息では讀み下せない長々しい、そしてこじつけたやうな題のつけ方をいたしましたが、此あつまりは共勵會のお催しではあるけれども、講師としては友愛會から會長と油谷先生がお出でになり、餘興も友愛會の餘興部の方々がお出でになり、お集まりになられた聽衆の中にも大勢の友愛會婦人會員のゐられるのでありますから、斯樣した題のつけ方をいたしましても、共勵會の會員諸孃及び幹事の方々、幹事長の蒲生さんも、一寸お首をお傾げになる位で、まあまあよからうと彼仰るに違ひあるまいと思ひます。

▲蒲生さんと云ふお方は笑の國の王樣のやうな方で始終にこ〳〵されてゐらつしやいます。御仕事は工人の幸福と安全の爲の御計畫と御實行をなさる事である相ですが、御自分も矢張其安全第一な御幸福に包まれてゐらつしやるらしく、自然、笑の國の王樣のやうになつてお仕舞なのであらうと思ひます。

▲記者の見る所では蒲生さんは人道主義者です十月十八日、會の未だ初まらない前に、應接室でいろいろのお話を承りましたが、それがみんな人生の幸福の爲めの御話です。蒲生さんのお胸の中を立割つてそれを繪にして見たならば、清い美しい惡の無い

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

笑の國が、晴れ渡つた靑空のやうな色に畫かれてゐるだらうと思ひます。蒲生さんの未來の美しい國のお話を承つてゐますと、外では現實の雨が降つたり晴れたりしてゐます、其度毎に私等の胸も又晴れたり曇つたりいたします。雨に降られては工場から此會場にお出でになる工女さん達は定めしお困りでせう。そして夜になつてからお歸りになる道の惡さのお困りが思ひやられます。

▲會場は食堂であります。廣く淸潔な西洋室、講壇の傍にオルガンが据ゑられて、早く夜になればよいと待つてゐるやうです。食堂を大勢の人達が片づけてゐらつしやいました。食事をする場所がみるみるお話を聞く場所と變つてゆきます。あゝ立派な會場が出來ると私は私と諸共に會のお助けに行つて下された本部の久留さんと、氣持よく眺めてゐましたが、聞けば今晩會をする爲めに、食事をなさる所をとられて大變困つた方もあつた相です。

「電話で大變叱られました」つて蒲生さんは、叱られて嬉しかつたと云ふやうな顏をなさいながら、被仰いました。眞實に其お方々にはお氣の毒でございました。

▲夕暮になりました。願つた甲斐がありまして雨が小止みになりました。工女さん達がぞろ〳〵會場へ入ります。嬉し相に笑ひながら、ぞろ〳〵ぞろと會場へ入ります。やがて夕食の代りに一袋宛のパンが皆樣の笑顏の前に配られました。

▲夜になりました。何と云ふ光り輝く會場でせう「晝を欺くと云ふ事があるが、此會場は晝間より明るい」と久留さんが云ふ。其通りと私も思ひました。外では秋雨がしと〳〵と降つてゐますが、會場の中では、明るい、しかもスリガラスに包まれた、圓い光が漲つて、六百人以上の婦人達が、會の初まるを今や遲しと待ち構へてゐます。

▲いよ〳〵開會。蒲生さんが開會の辭をお述べになつて、それから共勵會の會歌を皆さんでお歌へになりました靜かな優しい懷かしい歌です。水をうつて部屋を掃除したやうに其歌の力で會場がじつと落着きました。

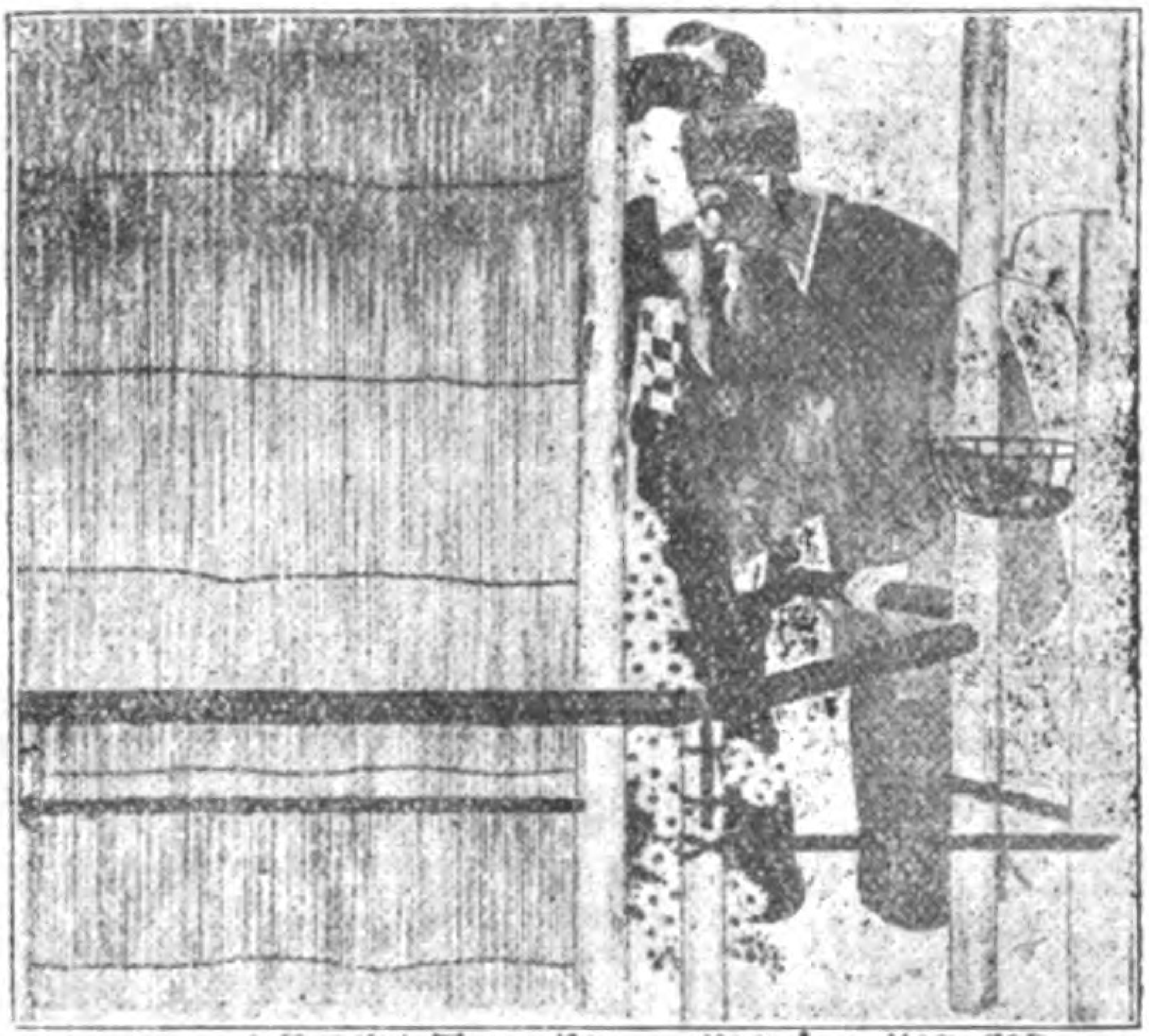
▲第一番のお話は油谷先生の「マツダの婦人」と題されてペルシヤの一番尊い光明の神樣のお話でありました。

「マツダランプ」と聞くと世間では東京電氣の社長

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さんのお名前のやうに思ふ人もありますが、それは大間違で、マツダとはペルシヤの一番尊い神様のお名前で、マツダ神様は光明の神様で暗きを憎み、清らかな神様で不潔を厭ひ、温かな神様で冷酷を憎む神様であります。皆様も此神様のやうに光り輝き清らかに又温かくあつて、暗き事、不潔な事、冷やかな事をしてはいけませぬ」と云ふが先生の御演說でした。面白いお話の中に深い教へが含まれて、聞く人をして深く考へさせました。

▲次に有山旭千孃の筑前琵琶管公の一曲、今は昔の物語り、道眞公の悲しいしかも清らかなお心は孃の豊かな聲で語られました。流るゝが如く咽ぶが如く又輝くが如き聲は人の心に沁み入らさずには置きません。満場水をうつたやうにひそッとしてゐます、やがて語り收めた刹那、われ人共にほつと息を吐きました、と思ふと、忽ち崩れるやうな笑聲が起りました。旭千孃が高座から下れる時其危氣な様子がおかしかつたのです。



黄菊白菊　（文展出品）
松村梅叟氏筆

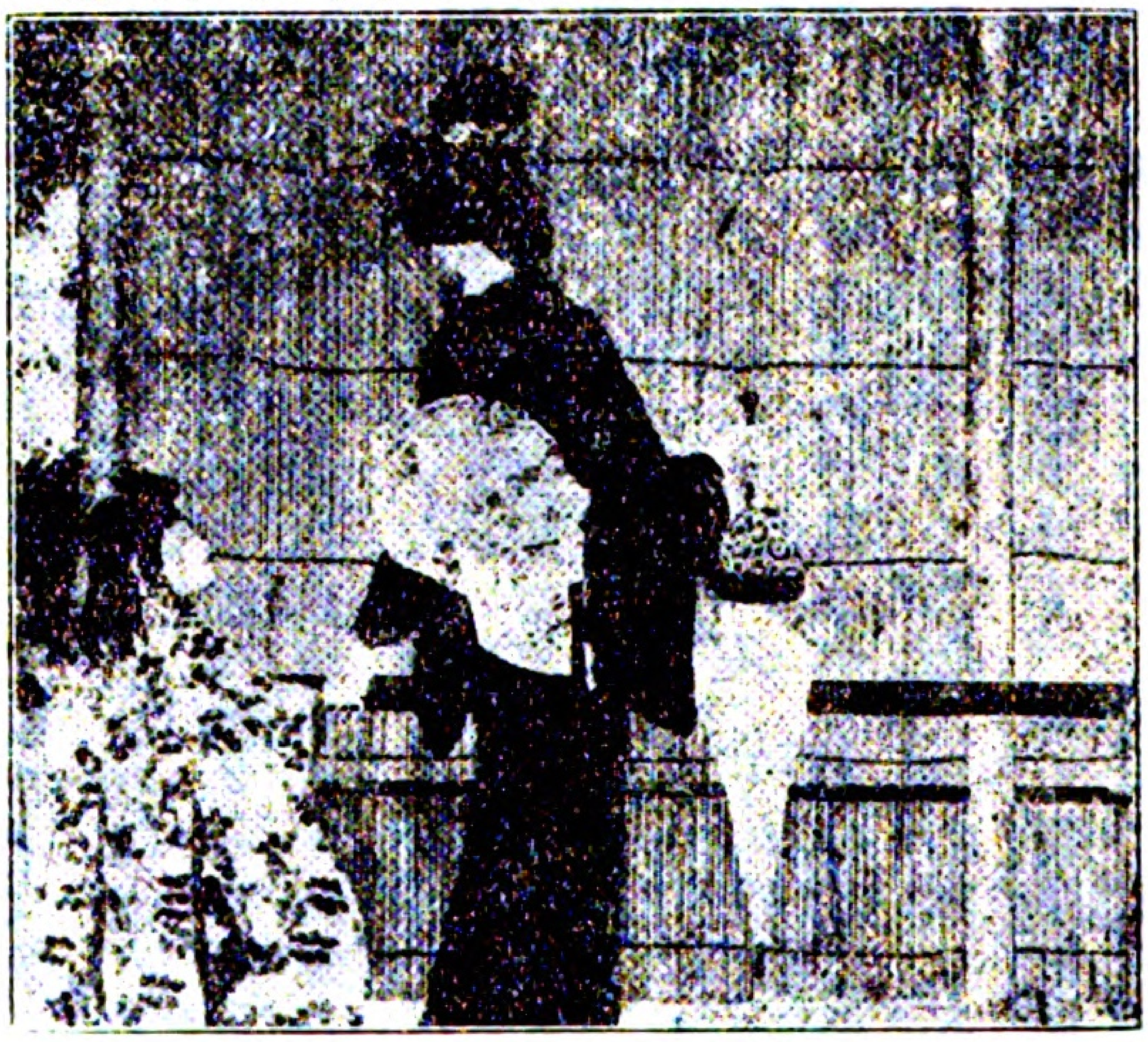
▲實はそれは私共の失策なのです、孃がいよ／＼琵琶を彈ずると云ふ時になつてから、其用意を忘れてゐたので大狼狽、それ机、それビール箱を並べろ、それ座布團は何所かに無いかと云つたやうなわけでやつと琵琶を彈ずる高座と迄ゆかず、カウ位を間に合せにこしらへたのでしたが、「くせがついてゐますから、お腹に力を入れたり、身體を振つたりする時、もしやと思つてハラ／＼ハラしましたわ」と孃は後で記者に云ひました。孃には内密で皆さんにお知らせいたします

▲次はいよ／＼鈴木會長の御演說。「婦人の職業と獨立」と題されて婦人がハタラク事の神聖であると云ふ事や、ハタラク事に依つて貞操も全ふされ又眞實の人間になれると云ふお話でした。此世の中のどんなものにも命はあると云ふやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

な、深遠な宗教の哲理も、地球を動す鯰のお話やらお團子になつたお星樣のお話やらにして、面白くおかしく被仰つて皆樣を始終大笑させました。會長は男の方の集會には男向きのお話をなされて常に聽衆に多大の感動を與へてゐらつしやいますが、御婦人に對しては矢張女向きのお話があるものだなと記者は感心いたしました

▲お次は常に「友愛婦人」に新講談をお書きになつてゐられる三浦樂堂先生の講談は「彫刻家の母」いつぞや「友愛婦人」に掲載したお話です。講談には矢張講談の味はあるもの、巧みにみなさんを笑はしたり泣かしたりいたしました。お宅が遠い爲めお話の中途でお歸りになられた方もありましたが眞實に殘念でした。お歸りにならうとして座をお立ちになつて歩き初めましたがあまりお話が面白いので、又別な所に腰を下してお聞きになつた方もありました。



黄菊白菊（文展出品）
松村梅叟氏筆

「三浦君の今晩の講談は私が之れ迄聞いたうちで一番巧い。非常によかつた」と會長が、あとでお賞めになると、樂堂先生、
「なあに、此頃では拙いうちです」と御自慢されました。會長や樂堂先生に内密でみなさんにお知らせいたします

▲會が終つたのは九時半應接室でみなさんの戴いたパンを戴いて、それを食べながら、此暗い道の惡さを遠くお歸りになる皆さんの噂をなし、それから皆さんの幸福を祈りながら、會社を辭して矢張ぬかり路を停車場へと歩きました。川崎支部の幹事伊藤さんのお見込りを受けて有難うございました。男の幹事委員の四人のお方にお目にかゝつて嬉しゆございました。婦人の委員の方々にもお目にかゝりとうございましたが、機會が無くて殘念でした。此後も亦婦人部に就いて御盡力をお願ひいたします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

看護婦養成所の必要

みどり看護婦會々長　小山清

□■□見習看護婦

善良なる看護婦會の必要と看護婦會革新の時機は今であると云ふ事を私は前號で申述べましたが、されば如何にして看護婦會を革新爲す可きかと云ふに、それは一朝一夕にして言明し、又計畫實行出來得る事ではないが、見習看護婦を募集し、それを完全なる看護婦に仕立てると云ふ事は、缺く可からざる一ツの方法であらうと思ひます。

□■□見習看護婦募集の方法

今迄見習看護婦は如何なる方法で募集致しましたかと云ふに、甚だ面白からぬ方法であるやうに思ひます。新聞に廣告するとか知人に頼むとかいたすのでありますが廣告する新聞社は其募集された人間に就いて責任はありませぬし、知人に對してはいろ〳〵の情實がありますので思ふやうな事は出來ないのみでなく募集人員の集まるも困難であります。漸く新聞を見て來る人がありましても、多くは駄落者とか食詰者とかで、將來大切なる人命を預る人に仕立てるには甚だ心細いのであります。で、此際友愛會の如き團體の力で見習生を募集し、其人に就ては責任を持つて貰ふと同事に、養成中の見習看護婦に對する看護婦會の待遇を監視して貰つたならば、雙方の爲めよろしいであらうと思ひます

□■□見習看護婦に對する待遇

さて其募集して集つた看護婦に對しては如何なる待遇を爲す可きであるかと云ひますれば、其方法に就いては千言萬言費しても猶ほ且つ說明爲し得ないのでありますが、其精神はたゞ、看護婦見習も亦人間であるとの觀念を持てばよいと思ひます此觀念あつてこそ初めて今迄の古き習慣や待遇は廢されて新しい善良な待遇法になり、從つて看護婦界の革新となるのであると思ひます。

赤ちやんの展覽會

一記者

此所に寫つてゐる赤ちやんは、まる〳〵と太つて元氣に力んで、何てまあ可愛いんでせう。

此赤ちやんは横濱の牛乳屋、伊藤重太郎さんのお子さんで、阿久理さんと云ふ今年二月生れの赤ちやんです。目方が驚かれるではありませんか三貫八百目あります。東京は巣鴨の帝國小學校で毎年開かれる赤ン坊展覽會の一等賞を取つた豪傑の卵です、阿久理さんのお母さんも目方が十六貫餘りありますつて　丈夫な兒は矢張丈夫な阿母さんでなくば生れない。こんな可愛い子が欲しかつたら、自分が先づよく衛生を守つて丈夫になるんですね。

醫者の話によりますと自動車や馬車で連れられて來る兒、女學校出のお母さんの抱いて來る子、厚衣させる癖の兒、牛乳で育つた兒なぞはとても赤ん坊展覽會で一等賞を貰ふやうな兒にはなれない相です荒つぽくぞんざいに育てた兒程丈夫ですつて。だから小兒はあまり可愛いがり過ぎてはいけません。それから五年間に之れ迄一等に選ばれた五人の子はみんな春生れか夏生れですつて。

赤ん坊展覽會はいつ生れの子が丈夫だとか、どんな育て方をしたがよからうと云ふやうな利益になる事を知る爲めに設けられた會であります。所が展覽會と聞いて、扨ては不具の子を集めるんだなと思違つて以前は御苦勞様にもわざ〳〵不具の赤ちやんを連れて來た人もありましたつて、今年は不具の兒を出して一等賞にありつかうなぞと思ふ、欲ばつた人はゐなくなつてみんな肥つた赤ちやんばかりでした

赤ちやんが二百人以上集つたのでしたから、それはそれは泣いたり笑つたり、賑かでございました。

＊　＊　＊　＊　＊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

歴史
物語

國の爲めか家庭の爲めか

上野あき子

「母ちやんお父さんが歸つてよ。」と、お母さんの歸るのを工場の門前に待つてゐたメリーさんは、母親の姿が見えると嬉しげに、犇と抱き着きまして、斯様云ひました

「まあ、お父さんが歸つて、眞實?」と、母親のユニャの眼も嬉しさに輝きましたが、之れはまあ什麼したのでせう。忽ち其嬉しさに輝いた眼は愁はしげになり、

「眞實にお父さんはお歸りになつて?」と、心配相に我子に聞きました。

「眞實よ眞實よ、お土産だつてねこんな大きな黒パンをね、あゝ嬉しい嬉しい」と、メリーさんは母親から離れて、可愛い手を叩きながら飛び廻りました。

「まあ、そんな大きなお聲をお出しちやいけませんメリーさん〳〵と母親は又我子を引寄せて、其顔をい、い、しみ〳〵見ながら、

「眞實にお父さんは歸つてメリーさん」と、又しても聞く其言葉は打慄えてゐます。母親の有様がおかしいと子供心にも思つたのかメリーさんもまじ〳〵と母ちやんのお顔を見ながら、

「眞實よ、お父さんはお歸りになつたわ。」

「大きなお聲をお出しちやないと云ふに」と、母親は我子をたしなめて、憚るやうに四邊を見廻したが、傍に誰もゐないと見てから、

「ねえ、メリーさんはいゝ子だからね、お父さんのお歸りになつた事を誰にも云てはいけませんよ」

「…………」

默つてメリーさんは母親の顔を

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見てゐたが、不思議相に黒眼勝な眼を丸くして、
「何故いけないの母ちやん、何故お父さんがお歸りになつたと云つてはいけないの。」
母親は默つて犇と我子を抱き寄せ、其頭にキスをして、熱い涙をぽろ／＼と零してから、斯樣云ひました。
「お父さんがお歸りになつた事がわかるとね、お父さんは他所の恐い叔父さんに連られて牢獄へ行かねばなりません。」
此お話はロシアの國はタムボフ州のコズロフと呼ぶ町で出來たお話です、メリーさんは子供ながらロシア人ですから、牢獄と云ふ所がどんなに恐ろしい所かわかつてゐます。で、母親のやうに、聲を潜めて
「母ちやん、何故お父さんは牢獄へ行かねばならないの、お父さん惡い人なの。」
「いゝ勿體ない、お父さんは惡い人ぢやありません。」
「それでは、何故牢屋へ行くの。」
「お父さんはね、戰場から逃げて來たんですよメリーさん。」
「それでは、お父さん惡い人よ。」
母親は思はず、又しても我子を抱きしめ、
「メリーさんにそんな事がわかつて。」
「あたい聞いてよ、メリーさんはお利口だもの。」
「まあ此子は」と、母親はひたツと呆れて、
「そ、そんな事を云へて、まあ子供だわねえ」と云つて又ぽろ／＼と泣くのでした。

＊　＊　＊　＊　＊

ロシアに今年の春内亂が起つてから、其事が獨逸と戰爭してゐる兵隊にわかると、大勢の兵隊の中には戰爭をするのが厭になつて、敵が攻めても來ないのにどし／＼逃げ出す人があります、之を捨て置いたら、ロシア帝國は亡びるばかりですから、大變だと云ふのでタムボア州では戰場に出てゐる兵隊のお内儀さん等が會議を開いてもしも軍隊から逃亡した兵卒をみつけたらそれが自分の夫であらうと、何であらうと、直ちにお上の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

手に引渡さうと定めたのであります。

ユニヤさんは自分の夫に限つてそんな非國民な事はせぬと固く信じてゐましたので、自分は國の爲め兵器工場へ出て、馴れぬ仕事にいそしみながら、一時も早く憎い獨逸を亡して、夫は目出度く凱旋し、昔のやうに、平和な家庭を作りたいと思はぬ日とて無く、今日も今日とて、將軍のやうに胸に勳章を輝しながら歸つて來た夫の立派やかな姿を幻に畫いて樂しんでゐたのに、それがまあ、逃亡兵！嗚何と云ふ事をなさつたらう逃亡兵ならたとへ夫であらうともお上に訴へ出ねばならぬ。と、云つて、現在の自分の夫を、什麼してあの恐ろしい牢獄の内裡へ入れられやう、しかも、惡くすると死刑！

おゝ死刑にならねばならぬ、が國の爲めなら此儘逃すわけにもならぬ、とユニヤは千々に思ひ亂るゝのでありました。

＊　＊　＊　＊

夫のズブノフはそんな事とは知りません。勞れ切つた身體で久し振りで歸つた我家、ごろりと横になりながらやれ〳〵と思ひ、いとしい妻子の歸るのを今や遲しと待つてゐるのでございました。

所へ先づ飛んで來て縋りついたはメリーさんです。

「お父さん！母ちやんが來てよ。」

續いて歸つて來たは妻のユニヤものをも云はず夫に犇と縋つて、聲をあげて泣き出しました。

「おゝおゝ」と、ズブノフは久し振りで逢つたのだから、嬉しくつて嬉し泣きに泣くのだと思つて

「おゝ、おゝ、泣かいでもいゝ、泣かいでもいゝ」と頻りに妻の脊中をいたはつてゐます。と、急に顏を上げたユニヤは、突然

「ホヽヽヽヽ」と笑ひ出しました。

夫のズブノフは吃驚して、妻の顏を見ると、ユニヤは凝乎と夫の顏を見たが、其顏はみる〳〵強くなつて

「卑怯者」と夫を叱りつけました

「まあお前」とズブノフは更に吃驚して

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「おゝあまり突然歸つたので、嬉しさのあまり氣が狂つたか、さあ氣を鎭めろ、氣を鎭めて」と妻の手を取らうとすると、ユニャは其取らうとした夫の手をぴし、りと叩きつけて、

「卑怯者、戰場から逃げ歸つた臆病者、さあ、ロシアの國の爲め、おんみを逮捕する。」

「何だと」とズブノフは氣を失ふ程驚いて、

「そんな事は云はぬものぢや、わしが歸つたと云ふも皆、お前達が可愛いと思つたからではないか、戰場の露と消えるわしは兼ねての覺悟ではあるが、内亂の起つた故郷で、お前達がどの樣な苦しい目に逢つてゐるか、それはかりが心配になつて、漸く此所迄歸つて來たのぢや、それを優しい言葉をかけるでなし、突然わしを逮捕するなぞと、そんなつれない事は云はぬものぢや。」

それでは矢張夫は私達の身の上を案じて歸つて來たのか、噫それ程迄に心配して下されたのか、勿體ないと、こみあがる感情と共に差延べた夫の手は縋りつかうとしたが國の爲めだ、ロシア帝國は今恐ろしい時機に遭遇してゐる。國を忘れてはならぬぞ、と、頭の中に強く響く聲がして、思はずたじ〳〵とよろめいたが、屹乎と立止つて、

「國の爲めです、貴郎を逮捕します」と叫んで、胸の中で忍び泣いた。

其時であります。どかどかと入つて來たは一隊の警官。ズブノフは默つてはたツと妻を睨みつけましたが何事も云はず警官に引かれて行つて仕舞ひました。

「國の爲め、國の爲め、國の爲め」と叫びながら、ユニャはばたりと倒れ伏し聲を限りに叫び泣きました、夜は暗い！可哀相なロシャの民よ。

＊　＊　＊　＊

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

着物のおはなし

小野玉枝

第二回

前回は衣服の目的と手入保存法についてざつと御話を致しましたが、今回は衣服の選擇、つまり買入の場合の心掛けについて、申して見度いと思ひます。

着物を買ひたければ、三越なり白木なりに御出でなさい、目も眩む様な美しい色彩の品々が、山程積んで御好み次第、なんなりと手に入れられます、と云へば一口ですけれど、さらぬだに虚榮にあこがるゝ現代に流行の誘ふがまゝ己れの慾の向ふまゝ、無暗に衣服ばかり買ひ込みましては、取りかへしのつかぬ、禍をも併せて背負ひ込む様な事のないとも限りません、とかくに弱い吾等が心、慾望といふ敵に打ちまけんとする瞬間頭を冷静にして、まあ以下の事を考へて見るのも、良い策略の一つかと存じます。

(三) 衣服選擇上の注意

(一)經濟上の注意。

先づ第一に財布と相談しなければなりません、拾圓の衣服を買度いが、八圓しかない、僅か二圓だけだからまあ何んとか都合してな

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ど、着物のために借財をする人もあるでせう。然し拾圓の着物を着なければ生きてゐられない譯もないと存じます、八圓で用の濟む樣に頭を働かせてこそ、ほんとに着物を用に立てたと云ふもの、借財等をするやうでは着物に使はれた人と云はなければなりません。だから常に幾分づゝ心掛けておいて、經濟の許す範圍に於いて、これを求め、決して無理な算段などはしない樣にしたいものです。

(二)身分に應じた衣服

或る御宅に誠に氣の利いた下女がございました。萬事にぬけ目がないので、奥様の大層御氣に入りでございました、或日奥様の外出の御伴を仰せつけられましたが、下女はこの時こそと思つて大事の紋附羽織を行李の底から出して、着て濟まして御伴をいたしました處が其日奥様から大層御叱りを受けました。下女が紋附羽織を着用して、奥様の御先に立つと云ふ形は決して見よいものではありません。さりとて又奥様が素足で黒襦子の衿のかゝつた衣服もうつりません。其身分、其境遇、職業等に相應した、身なりを整へると云ふ事は最も大切な事でございます。

暮がた
勝野紫淵女史筆
(文展出品)

(三)年齢に應じた衣服

(イ)柄及色合について、

男でも女でも、大抵年頃によつて縞柄とか色合は、きまつて居るものです、無暗に大柄な着物や、派手派手しい色合のものは、誠に落ち附きなく、かつ品の惡いものです。と云ふて、又馬鹿に地味にして、十代の娘さんが三十位の人の、色合縞柄を用ゐたのも感服致

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

しません。

よく「日本人は早くから年寄る」と云ふ事ですが、務めずとも求めずとも、若い人は年老いて參ります、出來る丈御互は若い時を長くし、活動の時間を多くせんために何もそう早くから年寄りの眞似をせずとも、よく適當した色合、縞柄等を選ぶべきだと存じます。

(ロ)地質について

衣服の地質には御承知の通り絹や毛のやうに柔軟いものと木綿や麻のやうに硬々なものとがござります。老人や小兒は病人と同樣、身體をいたはりてやらねばなりませんから、贅澤を申すのでありませんが成る丈輕く軟かい、毛布や絹布を用ゐた方がよろしうございます。それに反して、血氣ざかりの若者は少々重くも硬くも、丈夫な木綿や麻で結構でございます。

(四)衛生上の注意

衣服には衛生上から見て、四ツの大切な性質を具へて居ります。今解り易くこれを説明して見ると

イ、通氣性

これは衣服の空氣を透す性質を云ふのでつまり衣服の風通しのことです、綿布や絹布が雨にでも逢ふと、直ぐにこの通氣を失ふけれど、フランネルやメリンスは、なか〳〵これを失ひません、だから夏分などメリンスの着物を用ゐますと、誠に心地のよいのはこれがためです。

ロ、保温性

これは衣服が身體の温度をよく貯へて、外へ放散させぬ性質なので、此性質をもつてゐる毛布や綿布は、着て温かくございます。冬分などはよく保温性のあるものを選ばねばなりません。

ハ、吸水性

これは衣服の水分を吸收する性をいふので、この性の少ない着物は、發汗を吸收しませんので汗は身體中流れる樣で、誠に心地の惡いものです。毛布は吸水性を最も有し綿布もやゝございます。

ニ、蒸散性

これは衣服の水分を放す性質を云ふので、麻はこの性質を一番にもつて居ります。夏分の暑い

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

盛りなど麻布（かたびら）を着て心地のよいのはこれがためですけれども餘りに體溫を發散し過ぎるので時々風など引くことがあります。

前申したこの性質をよく考へて適當にこれを具備して居るものを選ぶことが必要です。大體に於て最も衛生に適して居るのは、毛布次ぎは綿布、絹布　麻布の順序になつて居ります。

（五）季節によつての注意

四季折々によつて、衣服の色合から模樣、地質を異にして居ります。

夏季用は成る丈、冷凉を感ずる樣な、かつ洗濯に堪へ淸潔を保つもので、染色は白地、白茶地、水淺黃などの淡色がよく、

冬季は體溫を保蓄して寬やかに心地よいもの、染色は紺色、黑色褐色等の濃色がよい。

春秋はその中間をとつて、適當なものを選ぶべきで。

（六）用途

今衣服の用途を大體左の三つに分けて御話し致します。

イ　平常着……晴着
ロ　靜座用……勞働用
ハ　寢具用……襯衣用

イ　平常は成るべく堅牢な、地味なものを選び、晴着は優美にして而かも、淸楚、淡白な上品なものを選ぶ事。

ロ　靜座用には毛布及絹布より勞働用には綿布及び纎維の太い麻布をよしとす。

ハ　寢具用
- 第一　毛布及メリヤス
- 第二　メンフランネル綿メリヤス
- 第三　紬、太織の類

下着用
- 第一　メリヤス、さらし
- 第二　綿メリヤス、綿縮緞

（七）體の格好

背の高い瘠せた人は、成る丈模樣物などよく。縞物ならばむしろ混んだ縞か、或は場合によつては横縞（流行により）などの少し入つたものもよろしい。

背の低い肥つた人は堅縞物を用ふるとスラリと見える、縞もあつさりしたのがよろしい。而し餘りに大きな縞を用ふると、今度は却つて横に巾廣く見えるから注意しなければならない。

（八）流行について

最後に考へるべき問題はこれです、流行を無理に追ふ必要もありませんが、さりとて又之れに反對する必要もありません、一定の考へを以つて、これを取捨選擇すべきで、この事はなほ次回に詳しく述べます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

冒険 第一

紀文二代

三浦樂堂

三

慶安元年七月初旬折からの炎暑を冒して故郷熊の浦を出發いたしました文平は、二日の後には無事志せる嵯峨の清凉寺に到著いたしました。

文『ご免くださいませ、お願ひの者でござります』

優しい聲に訪へば、軈て内より現れし四十格好の僧。

僧『お訪ねなすつたはお前樣か。何ぞご用かね』

文『はい。卒爾ながら私は紀州熊野浦の百姓文三の悴文平と申します。此の春から身體の工合の勝れなかつたを押して我慢してをりましたら、病が昂じて遂々狂人になつて了ひました。父や母は大層驚きまして醫者にかけたり祈禱をしたり出來るだけの手當をして呉れたさうでありましたが、薩張り効驗がありませなんだ。偶と私の夢枕に通はれて尊きお姿を顯し玉ひしは御當山の御本尊釋迦牟尼佛で汝の孝心に免じて前世の宿業を解き病を治して遣はすと仰せられました。其の聲の消へないうちに是れ此の通り元の身體に復りましたので親共の喜悦は更らなり、重き佛恩に奉謝のため一七日の參籠がいたしたいと存じましてお尋ねいたしてござりまする。どうぞお聞き濟みくださりませ』

流暢と語るうちにも誠心溢れし文平の態度をみて、

僧『お見受け申せば年端も行かぬご容子なるに、世にも芽出度き心がけ、和尚に申上げたら嘸お歡びの事であらう。何は兎もあれ草鞋を脱いで此方に通つてご休息な

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

され』

丁寧に應接してくれるので文平も大層悦びまして、薦むる儘に遠慮もなく一室の内に通されました程なく最前の僧が出てきまして、

僧『大層お待たせいたしました。和尚に申上げました所果して大變歡ばれまして、お心置きなく幾日でもご滯留なされとの事でござりました』

と言置いて起とうとする僧の袂を捕へて、

文『一寸お待ちくださりませ。是れはホンの些少でござりますが御布施の印までに、是れは失禮ながら貴僧さまへ、他にお人は何人ばかりお在でゞござりますか』

大人も及ばぬ行き届いたやりかた、飯焚男にまで心づけを遣はして先づ其の心を攬るやうにいたしました。

何事にも目から鼻へ抜けるやうな文平、其日のうちにすつかり上下の者に入魂つて了ひまして、さて翌日からは朝夕佛を念ずる隙を見て、御室の御所や嵐山、さては清水、音羽の瀧、音に名高き金閣銀閣両寺より、祇園の町の花街まで観て、思ふさま眼の保養をいたしましたが、かゝるうちにも文平の心に愈よ深く思ひ込んだ事は如何かして我れ一代のうちに大富源になりたいといふ一念でありました。

四

和『それでは明日お出發かの』

白い長い眉の下に小さくはあるが鋭く光る眼をもつた和尚は恭しく自分の前に座つてゐる文平の愛くるしい顔を見ながら言ひました。

文『はい。往復四日一七日の參籠の日を加へて十一日目には歸るといつて參りましたのが、皆さんが可愛がつてくださるばかりに、つい長引きまして十五日ばかりになりましたので、故郷では親共が心配してゐるだらうと存じますので、殘念ながら明日は立ち

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たいと存じまする』
和『左様か。それでは留めませんから今宵は裕くり寢て明朝出發なすつたがよからう』
文『はい。ありがたう存じます、就きまして和尚さまに是非叶へて頂きたいお願ひがございます』
和『改つて何の願ひぢやな。拙衲で叶ふ事なら聽いてもあげやう』
文平は一と膝進めて、
文『是非叶へて頂きたいのでござります。』
和『して其の願ひといふのは…』
文『當山の御本尊を和歌山まで御遷座いたしたいので』
和『フム………』
和尚は落凹んだ眼を見張つた。
文『當山の御本尊釋迦牟尼佛が最ても尊く在すことは世界に知らぬ者もない事でございます。此度私の病氣の斯く速かに癒りましたのも偏に御靈夢のお力と存じまする就きましては一つには佛恩報謝のために二つには私故鄕の者共に此のありがたい御像を拜ましたいと存じますので、和歌山の寺に御遷座を願つて日數五十日の間御開扉を許されたいと存じます。どうぞお聽濟みくださいますやうに』
玆ぞと思つて文平は一心になつて和尚の袖に縋りました。年はとつてゐても俗世間の事に疎い和尚文平の腹に深い企劃かあらうとは固より知る由がないので、
和『飽くまで奇特なお志、さり乍ら當寺の掟として御本尊の遷座開扉は決して猥りに許さんのぢや併し其許のお志を聞いては無下にも退け兼ぬるで、其筋へ願ひ出で許可があらば聽き届けませう』
といふ返事。
文『それでは私は一旦歸鄕して又出直して參ります程に、萬事の所は宜しくお願ひ申します』
和尚の前を退つて次ぎの間へくると、堪へやうとしても堪へきれぬ驩びに、文平は思はず莞爾と獨り微笑むのでありました。
翌朝は暗いうちに起きて仕度いたし、寺ぢうの者に送られて門を出ました。
膽太い文平のお腹の中にどんな事をたくらんだのであらう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

秋のみだしなみ

婦人美容研究會々長　小口みち子

▲秋は人の顔が綺麗です

此頃の新聞雑誌を讀みますと、化粧店の廣告に秋口は人の皮膚が荒れるなぞと書いてりあますが、それは化粧品を賣りたい爲めの眞赤な嘘です、秋空高く馬肥ゆるなぞと申しまして、秋は誰しも氣持よく馬も肥れば人も又、御飯をおいしく戴かれます、御飯がおいしい程だから、自然身體も丈夫、身體も丈夫ならば其皮膚も綺麗になるのはわかりきつた理窟ではありますまいか、冬だの夏だのは氣候が激しく人間を苦しめますので人間はそれと戰はねばなりませぬ爲めに力を餘計とられ、顔容を綺麗にするにはなか〳〵骨が折れます。春秋は丁度人間には住み良い氣候ですから、人間は氣候と戰ふ必要がなく、其餘つた力で身體を健かにしますから、放つて置いても顔容が綺麗になります。

此頃は結婚する人が多いでせうその原因の一つはつまり、お嫁さんもお婿さんも顔容のお綺麗の時に御結婚なさる。其爲め家庭が餘計に樂しくなると云ふのだらうと思はれます。

▲秋のお化粧

ですから、秋はあまりお顔や何かもご〳〵お洗ひにならぬ方がよろしゆございます。湯屋になぞ行つて見ますと、一時間も二時間もお湯にお入りになつて、一生懸命垢すりなぞでお顔をご〳〵こすつてお出での奥さんもゐらつしやいますが、それは飛んでも無い間違つたなされ方であります。荒性の方が洗ひ過ぎますと餘計にお顔を荒らしますし、あぶら性の方が洗ひ過ぎますと、返つてあぶらがあとからあとからと餘計にお顔にあらはれます。ですから秋は折角綺麗になつてゐるお顔を汚さないやうに、洗ひ過ぎをしないやうになさらねばいけません。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

(之れからお化粧の事に就いて何かお聞きになりたい事がありますならば、御遠慮無くお問合せ下さい、紙上で丁寧にお答へします)

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十一月の手紙

▽菊の花に添へて（近所の友へ）

昨晩大層寒いと思ひましたが、今朝起きて見るとまあ大變な霜、此間の暴風雨で、瓦が飛んだ儘になつてゐるお向ふのお宅の屋根にも、白く寒む相に初霜の下りたのを見るは哀れ深うございます。

お隣の武坊さんだけは常と違つて大元氣、「しも、しも、眞白な霜」つて唄ふやうに云つて大喜びです。

フト氣がついて庭の片隅を見ると、心配した程てなく此霜にめげず、黃菊白菊の打混つて咲きゐるは心嬉しく思ひました。弱き女心は此菊の健氣なるを手本と仕りたく、あなた樣にも一枝、武坊さんに賴み御贈り致します、人世の險しき道を歩み行くすべ、此花にお問ひ遊しませ。

▽由坊より（故鄕のお祖母さんに）

おばあさま、由坊は、かあちやんと、まちをあるいてゐましたら、お

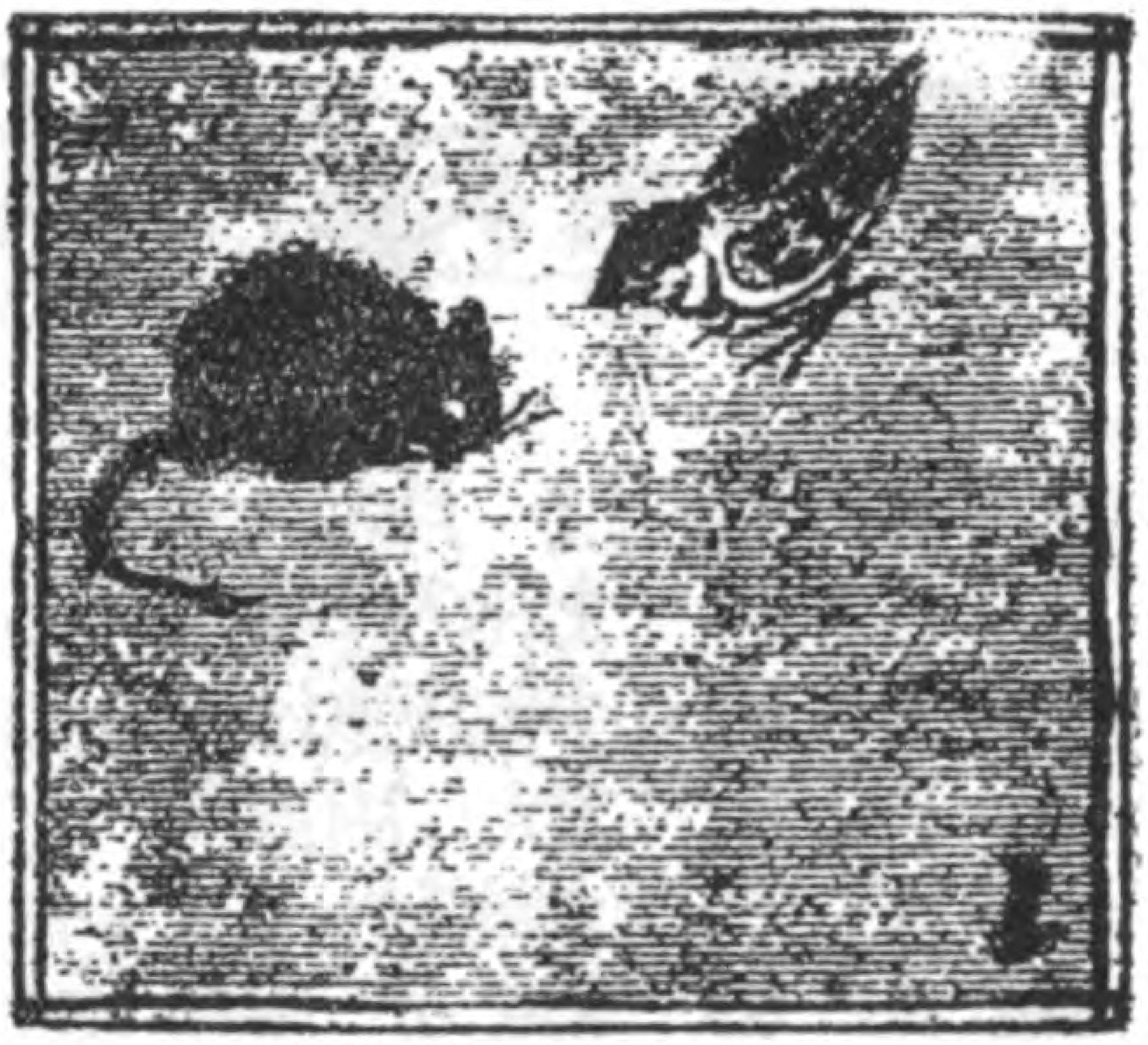
Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ばあさまのやうな、ひとが、いくにんも、あるいてゐました。かあちやんは、おくにでは、もうとりいれがすんだのです、それで、よそのおばあさまたちは、みやこけんぶつに、おいでになるのですと、おつしやいました。ぼく、おうちのおばあさまは、なぜおいでにならないのですかとかあちやんにきゝましたら、おばあさまの、おところへ、おてがみをあげてごらんなさい、そうすると、おばあさまはゐらつしやいますと、かあちやんが、おつしやつたのですから、おてがみをあげます。由坊はおばあさまの、おいでになるのをまつてゐます。

▽結婚祝の文

空は高く澄み、心は靜かにもの思ふによき秋は、星の美しく光る十一月の夜、あなた様には、人の世の幸福に守られて御結婚遊されし由、星はますます美しく光る可く、空はます〳〵高く澄み渡る可く、まことに御目出度きのきはみにこそ。今よりは枝も榮えて、葉も繁りつらん、幾千代かけてあなた様のお家庭に幸あれかしと、高砂の翁媼に言傳して、謹み謹みお祝ひ申上候。　かしこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



鼠と雀（オトギバナシ）

一

むかし〳〵鼠と雀とがお寺の門にとまつて大層喧しく言ひ爭つてゐました、何を言ひ爭つてゐるのかと聞いてみますと、獅子と驢馬と何方が強いだらうといふのが事の起りで雀は獅子が強いといふのに鼠はそんな事があるものか驢馬がよつぽど強いと剛情に言ひ張つてゐます鼠と雀とはふたりとも顏を眞赤にしてゐます。

二

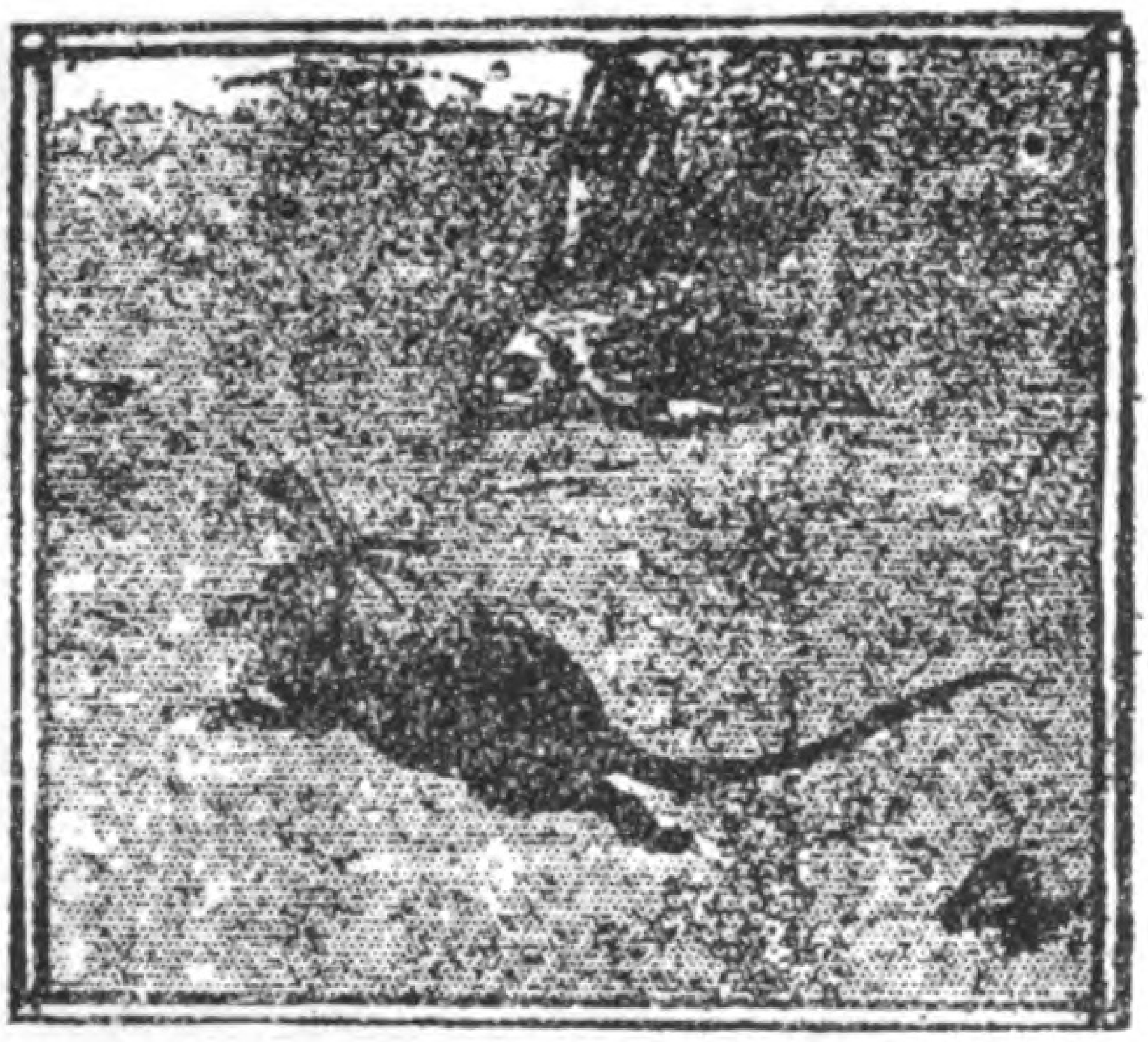
雀は嘴を尖らして『お前は知るまいが獅子は獸の王といつて象や牛のやうな大きな獸さへ獅子の前へ出たら怖れて尻尾を捲いてゐるんぢやないか』と言ひますと鼠は口髭を捻りながら『なあに驢馬の方が強いんだよ先日王樣が驢馬にお乘りになつて、森の中をお通りになると獅子が慌てゝ木蔭から飛び出して、驢馬の前でお辭儀をしたよ、那で見ても驢馬の方がずつと強いんだ』と申しました。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

三

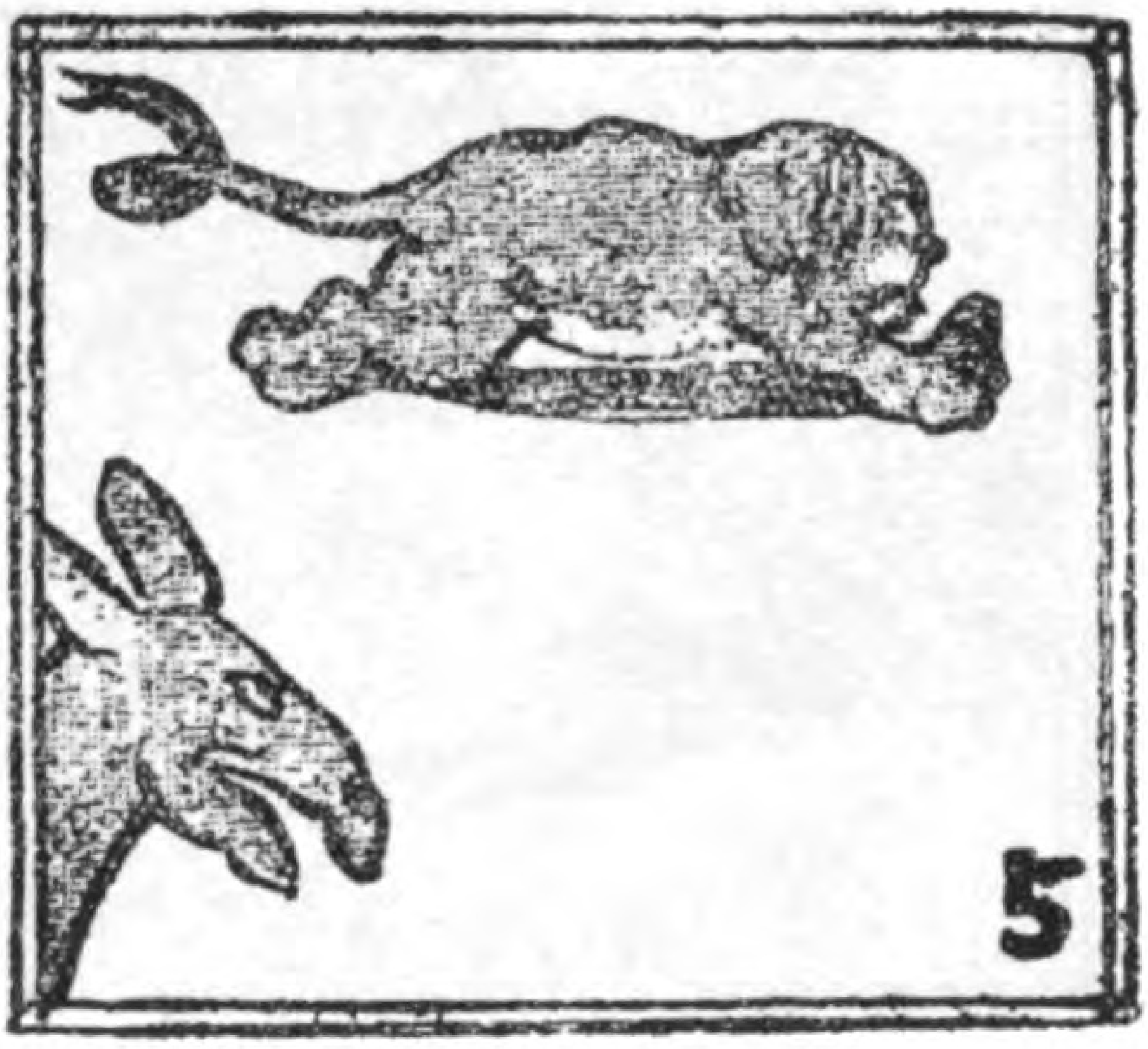
雀はそんなら二人で賭をしやう、若しお前が言ふ通り驢馬が強かつたなら、私は背についてゐる羽をお前に呉れてやつて、私は海の中に入つて蛤になると言ひました、すると鼠も負けてゐないで、夫は面白い。もしかお前の言ふ通り獅子が強かつたらなら、私はたつた一つしか無い尻尾をお前に呉れてやつて私は地のなかに潜り込んでもぐらとなる、そして二度ともう明るみへは出て來ないときつぱり言ひ切りました。



四

そこで雀と鼠とは連れ立つて森へ出掛けました、丁度そこへ山から獅子が、野から驢馬がのそのそと出て來ました。雀と鼠とは『さあ面白い、こちらの願ひ通り獅子と驢馬とがひよくり顔を合はせた』と言つて草の陰から容子をじつと見つめてゐました、獅子と驢馬とは互に鼻を衝き合せてゐましたが馬鹿な驢馬は獅子の強い事も一向知らなかつたし、丁度お腹も空いてゐたので獅子の前で大きな口を開けて欠伸を一つしました。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



五

獅子は夫を見て吃驚しました、驢馬はあんな大きな口を開けて、屹度俺を嚙みに來たのだらう、恐い事になつたと思つたものですから一散に逃げ出しました、すると鼠は夫を見て自慢さうにまた口髭を捻りました『どうだい雀さん言はないこつちやないちやないか、那の通りしゝは驢馬を見ると、すたこら逃げ出してしまつた、さあ〳〵賭は私の勝になつたのだから早くお前の羽をはづして私に呉れなさい』と大喜びで雀に催促しました。

六

雀は『仕方がない、賭に負けたのだから』と言つてすごすご羽を外して其の儘海に飛び込んで蛤になりました、鼠はにこにこもので雀が置いて往つた羽を小腋につけたと思ふと『さあ立派な飛行機が出來上つた、一つ飛んでみよう』と言つて其邊を飛び廻りましたが、さてお寺の家根に下りて羽をはづさうとすると何うしても羽が除れません、見ると元の鼠ではなく蝙蝠になつてゐました、皆さん蝙蝠を御覧鼠のやうな顔をしてゐます。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

私なぞお内儀さんになつても

何にも出來ませんもの

「私なぞお内儀さんになつても、何にも出來ませんもの」と、暗黒で卑しい情を賣る女の口からよくきく言葉でありますが、お内儀さんになつても何にも出來ない女が、卑しい情を賣るやうになるのかも知れません

お蝶はいつも口癖のやうにこの、私なぞお内儀さんになつても何にも出來ませんものと云つてゐる酒場の女でした。何にも出來ないならば、何にも出來るやうに勉強すればよいのですけれど、お客さんの來ない晝間の中、主のゐない椅子だけ淋しく並ぶ雨の夜、活動寫眞の話やら男のしなさだめをする暇はあつても御裁縫を習つたり、手紙の一本も書けるやうにとお手習をする氣にはなれませんでした。お内儀さんになつて、眞面目な人間らしい生活の出來る見込の無い人は、自然と惡い方へと墮落して行きます。

今年の春、櫻の花のホロホロと散る夕べ、お蝶は惡い男に欺かれて、とう／＼酒場を逃げ出しました。酒場と云つても明るい電燈の下でする仕事、世間には電燈の光を避けて闇へ闇へと暗きを求めてあるく女がいくらもあります。何所へ行つて來たかわかりませんが淋しい秋の暮れ、ひよつこり以前の酒場の軒場に佇んだお蝶は、惡い病氣の爲めにもう人間らしい顔色をしてゐませんでした。

「私なぞお内儀さんになつても、何にも出來ませんもの！」

嗚呼、何と云ふ悲しい言葉でせう。

お蝶のやうに酒場の女で無くとも、暗黒に卑しい精を賣る女でなくとも、お内儀さんになつても何にも出來ませんものと、悲しい心になつてゐる人は無いでせうかしら。

私なぞ何にも出來ませんものと思ふ心に惡魔がつけこみます。何でも出來るやうに勉強いたしませう。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

特別大懸賞募集

課題 私は夫にかうして欲しい
私は妻にかうして欲しい

お嫁に行つた人でも、未だお嫁に行かない人でも妻をお持ちの方も、お持ちで無い方も、自分の夫は斯様あつて欲しいとか、自分の妻は斯様あつて欲しいとか誰しもお思ひでせう其お考へを、眞面目に、正直に御投書下さい。文の長い短いは御隨意です。たつた一言で足りるかもわかりませんし

長く書く必要があるかもわかりません。文章の巧い拙いは二の次にして、好いお考への文を採ります。

投書規規

一、「私は夫にかうして欲い」は女に限ります。

二、「私は妻にかうして欲い」は男に限ります。

一、紙上に姓名を匿すは差支へありませんが原稿には住所姓名をはつきり書いて下さい。左様しないと賞金を送るに困ります。

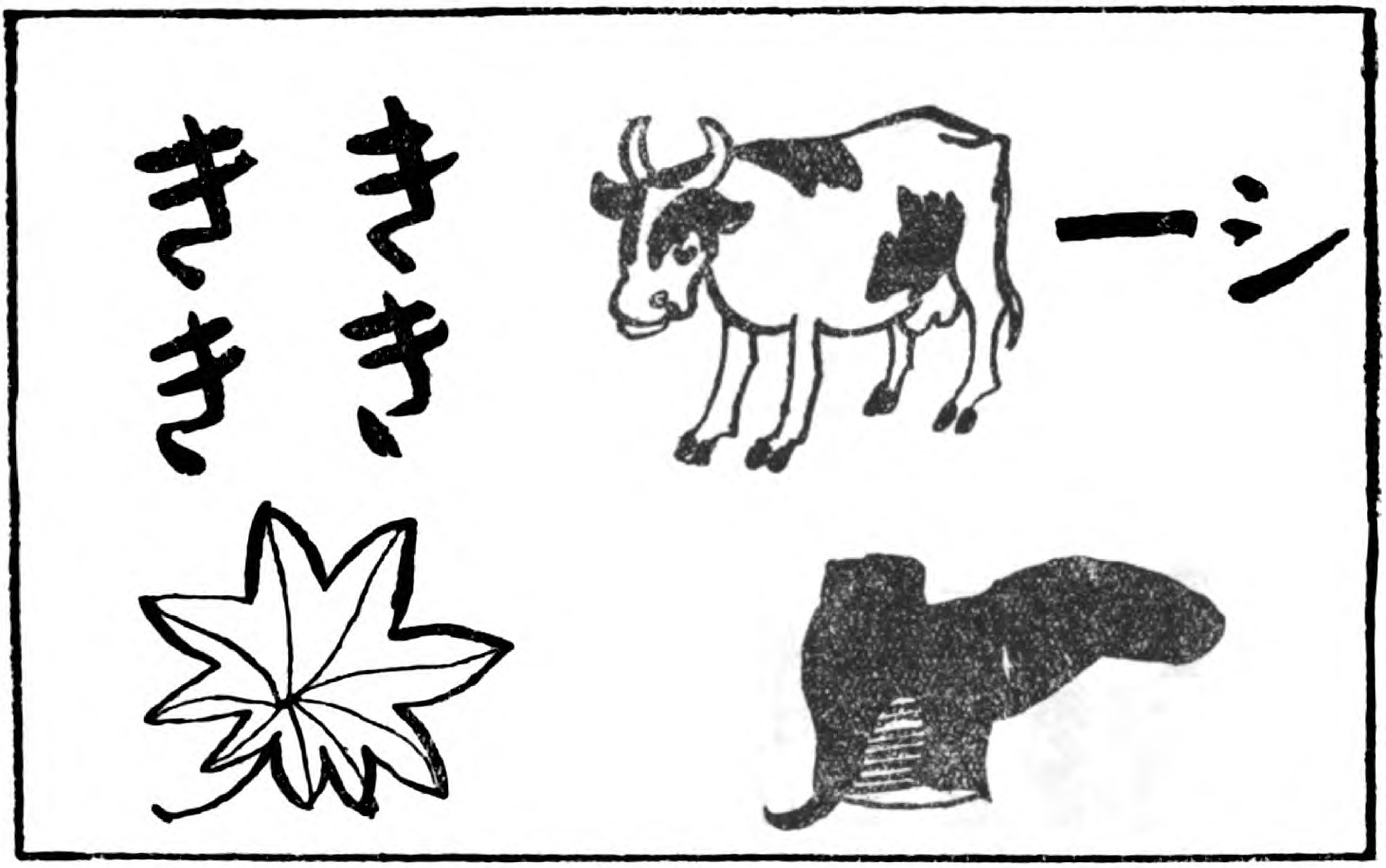
一、締切は十一月十日

一、宛名は東京三田四國町友愛會本部婦人部

賞金

一等各一名（五圓）二等各一名（三圓）三等各一名（二圓）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



懸賞判じ繪

上の繪を判じますと一つの言葉になりますわかつた方はお答へ下さい。

□注　意□

一、答はハガキ住所姓名をハツキリ書いて下さい。
二、締切は十一月十日
三、正解者十名に本をあげます。
四、宛名は東京三田四國町友愛會婦人部。

前號の懸賞解答

娘さんがあみものをしてゐますと、糸の先を赤ちゃんにいぢられて困つてゐる所です、猫にじやれつかれてゐるとお答へした方もありますが、それもよろしい。今度はあまりお答へが集りませんでした、例に依つてくじびきの結果。

□當選者□

本所　末永はつの　大阪　吉田とくえ　北海道　山崎タツ　本所　佐藤ヤミ　三田　野口よし　保土ケ谷　吉澤カツ　川崎　てふ子　本郷區　住吉サセ　越後　寺澤キエ　靜岡縣　村田マサ子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛文藝

短文

（一等）裸木

東京月島　雪子

柳の裸木がぼつねんと立つてゐる。何か考へてゐるやうである。可哀相に暴風雨の爲めに時節より早く裸にされたのである。

こんな時だ！

こんな災難に出逢つた時。人は落膽して病氣にでもなり、柳の木は此儘枯れるのであらう。

私は同情の心に滿たされて柳の木を凝乎と見た。と、忽ちやゝやツと驚いた。

柳の木は新芽をふいてゐる。十月だと云ふに新芽をふいてゐる。おゝ勇ましい戰士よ、私はお前から尊い教へを受けた。

（評）實に尊い教へであります、私共は此世の中の災難に出逢つた時、柳の木のやうな勇氣を振起さねばなりません、文はきび〳〵してゐます。

（二等）電車の中

横濱　佐藤よしゑ

京濱電車の中に綺麗にお化粧した令孃がゐました。指にはダイヤの指環、金色に輝く髪飾り、帶地は私等は見た事もないやうな立派なものでした。

「まあ綺麗ねえ」と、吉川さんは私に囁きました。

私は靜かに考へました、あの人は公衆の前であのやうなけば〳〵しい姿をしてそれで耻しく無いのかしらと、あの綺麗な着物や帶や指環や、顏につけた白粉に至る迄あの人自身の力で求めたものは一ツもあるまい。自分の力で得たものでないものを身に飾つて得意でゐる人。けれどあの人は可哀相な

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人である。何にも知らない人である。もしも其事がはつきりとあの人にわかつたならば、とても耻しくつて此世の中に活きてはゐられますまい。

(評)眞面目な徹底した觀察であります。自分の働きで得たもので無い物を得て、それでそれを誇つてゐる人のさても多數な事よ、そんな人達が正直に働いても猶ほ働いたゞけの物を得られない人達に謝罪する日がいつかしら參ゐりませう。

(三等)　あらしの夜

荏原支部　山田さち子

屋の棟が三寸下ると云ふ眞夜中ふいッと眼が醒めると、電氣は消えてあたりは眞暗。ゴー〳〵と物凄い風の聲、バラ〳〵と雨戸に叩きつくる雨の音。

あゝ恐ろしいあらしになつたわ水が出ねばよいがと思つてゐるとカラ〳〵〳〵。

突然何か落つて毀れた音、又してもガタ〳〵と戸が外れるやうな音。はつとして、私は思はず布團を冠つて仕舞ひました。

折しも、チン〳〵と二時をうつ時計の音、風はなか〳〵止みさうもありません。

(評)上手に出來ました。眞實の事を書いたからでせう。良い文章を作るには先づ眞實の事を書かねばいけません

◎家　路

神　戸　しらゆり

お節は今得た工賃を懷ろにして野路を、我家へと急いだ、父樣は仕事先からお歸りかしら、母樣はさぞ私を待つてゐられるでせう。「オヽ歸つたか定めし疲れたでせう」と被仰る、其優しい父母のお聲を聞くと、身も心ものんびりとなる。貧しいけれども、家内揃つて夕餉の膳に就き、終日の憂ひも不平も總て打忘れ打溶けて物語る時の樂しさ。

お節は其樂しさを思ひ浮べながら、そつと懷ろを抑へては微笑むのであつた。

輕い快い銀貨の響。おゝ尊い勞働の報酬よ！

(評)斯くして勞働の神聖がわかります。佐藤さんの書かれた電車の中と較べて讀むと限りない味がいたします。

◎秋の夕

王子支部　小百合

物淋しい秋の夕暮時、工場の歸

りがてらに、ふと見ると、電信柱に凭掛つて、十一か二の少女が泣いてゐた。

「あなたどうなさつて」と尋ねても、少女は無言でいつ迄も泣いてゐる。足を見ると泥まみれ、

「あら下駄の鼻緒が切れて、まあお氣の毒ね、それではたてゝあげますから私の肩へつかまつてゐらつしやい」と云つて、懐中から用意してある麻を出して、たてゝやつた。すると少女は只目禮したばかりで、涙を拭き泣きづすりしながら、幾度も幾度も後を振り返つて、嬉し相に笑ひ、無言で行き去つた。

あの少女は嬉しくて聲が出ないのか、それとも唖なのかしら、可哀相であると、其姿の見えなくなる迄見送つた。人通りは尠く淋しい秋の夕暮である

（評）良い事をなさいましたねえ。

親心咽泣く野や風白し

◎病床

保土ケ谷　藤川時江

「お母さん早く直つて頂戴よ……ネエ……お母さん、もし、お母さんの御病氣が直らなかつたら――どうしやう、私悲しいわ」と春ちやんは母にとりついた。

「春ちやん、そんな悲しい事を云つてお母さんをお泣かせてないよ」と、お母さんは苦しさうに涙の下から咳入つた。春ちやんは心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

配相に母の顔色を覗き込み乍ら、お背中を擦つた。
「春ちやん……お母さんはネ……春ちやんに擦つて貰ふと嬉しくてならないのよ」と、母は苦しい中にも嬉し相に云つた。其眼にはきらりと光る涙。

◎別れし友

在原支部　白　菊

「まあ豊さん、貴女は又こんな所で泣いてゐて」と云はれて私は思はずお姉樣に縋り付き、さめ〴〵と泣き入りました。
「無理も無いわ、ねえ豊さん、私等はかうした運命に生れて來たのですから、何事も浮世とあきらめてね、もう泣かないで丁戴ね、私迄悲しくなるわ、さあ涙を拭いてあちらへ行き、仕事をして丁戴ね。」
噫、それも悲しき思出よ、
此樣にして愛して下されたお姉樣も矢張他人でした。
思出多き秋は二度訪れ來たけれども、懐しいお姉樣との再會ば………噫、お姉樣、私はあなたが戀しくてなりません。

◎獨居の夜

王子支部　中山姫百合

しと〳〵と降る雨の日が、幾日と無く續き晴れかゝつては又惱しくもはら〳〵と窓打つ雨の淋しい音よ。今日も終日降つたが、それでも夜になつてから幾分か靜かになつたやうだ。秋とは云へ、何と云ふ淋しい晩だらうすら寒い部屋の中に。私獨りぽつねんと足袋つくろひをしてゐます、斯樣した晩は、色々の事が胸一ぱいに浮んで來ます。

身の幸（文展出品）栗原玉葉女史筆

外では未だ雨が降つてゐるらしい、トントトントンと雨だれが何かをうつてゐる音が頻り無氣に聞えます。家の隅の何所やらで、虫がコロ〳〵と鳴いてゐます。

◎船　路

芝三田　高木菊枝

「さらば御機嫌よう、御身體御大切に」と、しみじみ云へかはす間も無く、舟は懐しき友を運れ去りぬ。
「あゝ懐しき彼の舟よ、殘されし我を如何にせん」
呼べど答へず、舟は情無く海路遙かに走り去りぬ、
「願くばいま一度顔見度し、舟よ、友よ」
悲しきわかれ、互への幸福の爲めとは思へど、噫悲しきわかれ！（悲しき思出より）

◎國の弟に

川崎　田邊よし

懐しき弟よ、世は有早秋も老いて候へば、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

満山の紅葉綾羅と飾る田園の景、如何に候や故郷と分れて幾年月經つと雖も、幾百里の異郷にあらばとて、忘れ難きは里心にて候。特に眞心籠むるおん身の玉章を讀む時、萬感胸に迫りて懐しき極みにて候、一度讀みては父母を思ひ、再び讀みては弟妹を案じ、三度讀みては近隣、自然を胸に畫く姉の心哀れと思はゞ、故郷の近況お聞かせ下されたく候。

新體詩

（三等賞）　秋の朝

王子支部　小百合

はいねいちやんと愛妹は
辨當箱を重そうに
兩手で持ちて我が前へ
笑顔で差出す愛らしさ
母の情の籠りたる
辨當箱を手に持ちて
たらちねの君や妹の
嬉しき笑顔あとにして
父と二人で工場に
向ふぞ楽し秋の朝

（評）何でも無い日常生活を情深く書いてあります。

* * * * * * * * * *

心の幸（文展出品）　栗原玉葉女史筆

和歌

（二等賞）

東京府下大島　松本とく

◎暴風雨の後、動かぬ雲ありひんがしに、月あか〱と出でにけりかも

（三等賞）

福島縣　なでしこ

◎君を思ひ野路を歩めば我影の、土の中にぞ埋れよと呼ぶ

王子支部　中山姫百合

◎山寺の夕べを告ぐる鐘の音に、あはれ白萩ほろ〱と散る
◎何所より吹く荒風か知らねども我が暖きふしど美む。
◎吹き荒む夜半の嵐の呪ひしか

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

けさコスモスの地に伏して泣く

荏原支部　山田幸子

◎柿見ても故郷の母を偲びけり
初旅になく淋しきわれは

◎おり〳〵は裏の林に百舌なきて
青空高き菊日和かな

府下大島町　松本とく

◎大自然の前にひれ伏し力無き、
人を悲しむ時は來たれり、

◎あらしあらし、つぶさに思へ人
の世は、なさけとなさけはぶく
むものを

王子支部　小百合

◎快き朝風受けて工場に、務める
秋や我れは嬉しき

◎秋の夜に一家揃へて茶をすゝり
今日の快樂語る嬉しさ

俳句

保土ケ谷　藤川時江

◎友の事のみ思ひ出す夜永かな

◎愛ちやんは手習をする夜永かな

◎婦人會の講演を聞く夜永かな

◎人形の衣類をば縫ふ夜永かな

小石川　長谷川ヒサ子

◎嵐吹く絶間々々に虫の聲

◎名月や伏家の門を訪へにけり

◎こほろぎの聲にせうれて冬衣

米國櫻府　笹野柳子

◎ねつかれぬ旅の枕やさよ砧

倶樂部

△記者樣初め會員讀者の皆樣あらしにお變りはありませんでしたか、御見舞申上げます。
（山田さち子、王子支部一委員、中山ゆき、柿崎榮其他）

□有難うございます、記者や本部員はみんな無事御安心下さい。本部宛に大勢御見舞狀下さいまして有難うございました。とも〳〵此所でお禮申上ます。皆樣の中で被害の多いお方はお申越を願ひます。本部ではお見舞に就いて計畫中です（記者）

△記者樣稻葉先生は未だ彼地にお出でございますか御病狀は如何でせう、誌上でお知らせ下さいまし氣候不順ですから諸先生會員の皆樣の御健康を祈ります。（ゆき子）

□有難うございます、稻葉さんは未だいけません、ひよつとすると御病氣の爲め婦人部をお止しになられるかもわかりません、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

お氣の毒でありまするし皆様にもお氣の毒に思ひます(記者)

△記者様御機嫌よう、私は高木菊枝と申しまして愛讀者の一人であります、私は東京電氣株式會社に夫と共に働いて居ます、夫も友愛婦人の記事を大層喜んで居ます。記者様初め會員の皆様不行屆のものではありますが、今後よろしく御交際をお願ひいたします。(高木菊枝)

△皆様大變暮しよくなりましたがお變りありませんか、私の親友で同じい會員のはつ代様事先頃國元に良縁あり、母君のお迎へにより、目出度く四ケ年間の滿期を終へ退社なさへました。はつ代様は福島縣人で、初め群馬縣上毛モスリンに三ケ年滿期迄つとめられ、それより當社に參られし方にて、入社後いくばくも無く見廻りに昇進され次いで室長となられ、室並びに工場共に忠實にて眞に我等の模範であらうと思ひます、はつ代様は又勤儉の志厚く當社辭職の時は三百圓の預金あり、其上當社より勤續中の慰勞として若干の賞與金がありました、謹んでお知らせします。(東洋モスリン 岡川タミ子)

□それは〳〵はお目出度い事です記者もはつ代様の模範的工女であつた事を喜び、此後の御幸福を祈ります、會員の方々も此樣なお話があつたらお知らせ下さい。(記者)

△十月號の平澤先生の小說、御祭禮の舞臺を讀みまして私は思はず泣きました。私の會社でもこれによく似たお話がありました平澤先生、此後も什麼ぞ此樣な小說をどつさりお書き下さい。(とき子)

□友愛婦人では之れからは今迄より多く懸賞で文章詩歌判じ繪其他特別懸賞を募りますが、今迄に賞品を送つても返つて來たり賞品が屆いたか屆かないかわからないのがたくさんあります、何かに御當選なさつて、其賞品が翌月になつても屆かない方は其事をお申越し下さい。(記者)

△私は米國に住居して居る者ですが、毎月友愛婦人を樂しみにし

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て待つてゐます、で懸賞を解答したり、俳句なぞを少しでも出したいと思ひますが、何分遠地の事故思ふやうにならず、誠に殘念に思ひます、九月號か漸く九月二十日の今日着致しましたやうなわけであります。ですからとても投書の間に合ひませぬ今後は前號に後れたら次號に出して戴くと云ふやうなわけにはまゐりますまいかしら、此後は何分よろしくお願ひします。(米國にて柳子)

□文章詩歌はいつお出しになつても差つかへありません、米國の事やら、あなたの御感想やら御投稿下さい、歡迎いたします、解答は困りましたね、何とかよい工夫を考へて置きませう、それから米國へは友愛婦人はあまり澤山行つてゐませんが、御都合がよかつたら、澤山行きますやうに御盡力願ひます。(記者)

△記者樣私は今年十六歳になりますが、兩親の無い爲め今は〇〇工場の工女となつて居ますがどうか看護婦になつて一生を國の爲め盡したいと思つてゐますが年閉き次第なれる方法はありますまいか高等小學卒業いたしましたばかりでございます。(〇〇工場にてみのる)

□お國の爲めに盡すならば看護婦になつても工女でゐても同じであります、記者は今の御職業を熱心におつとめになられる事を望みます、然し止み難い事情がありましたら御相談に依つて御盡力いたしませうお休みの日にでもお出でなさい。(記者)

懸賞募集規定

▲短文(一人一篇)一行二十字詰十行以内
▲和歌(一人五首以内)
▲俳句(一人十句以内)
▲一口ばなし(一人二文以下)
▲賞金、一等各一人(一圓)二等各一人(五十錢)三等各一人(三十錢)
締切毎月十日)

注意

用紙は半紙へ書く事、住所氏名は明瞭に書く事、宛名は東京三田四國町友愛會婦人部

暴風雨御見舞

拜呈

今回の暴風雨は其被害頗る甚大、且つ突然の事とて精神的に憂懼を深められし人もあるやと考へられ候。會員諸姉及び讀者諸君は如何に候や、謹んで暴風雨のお見舞申上げ候。敬白

友愛會本部婦人部

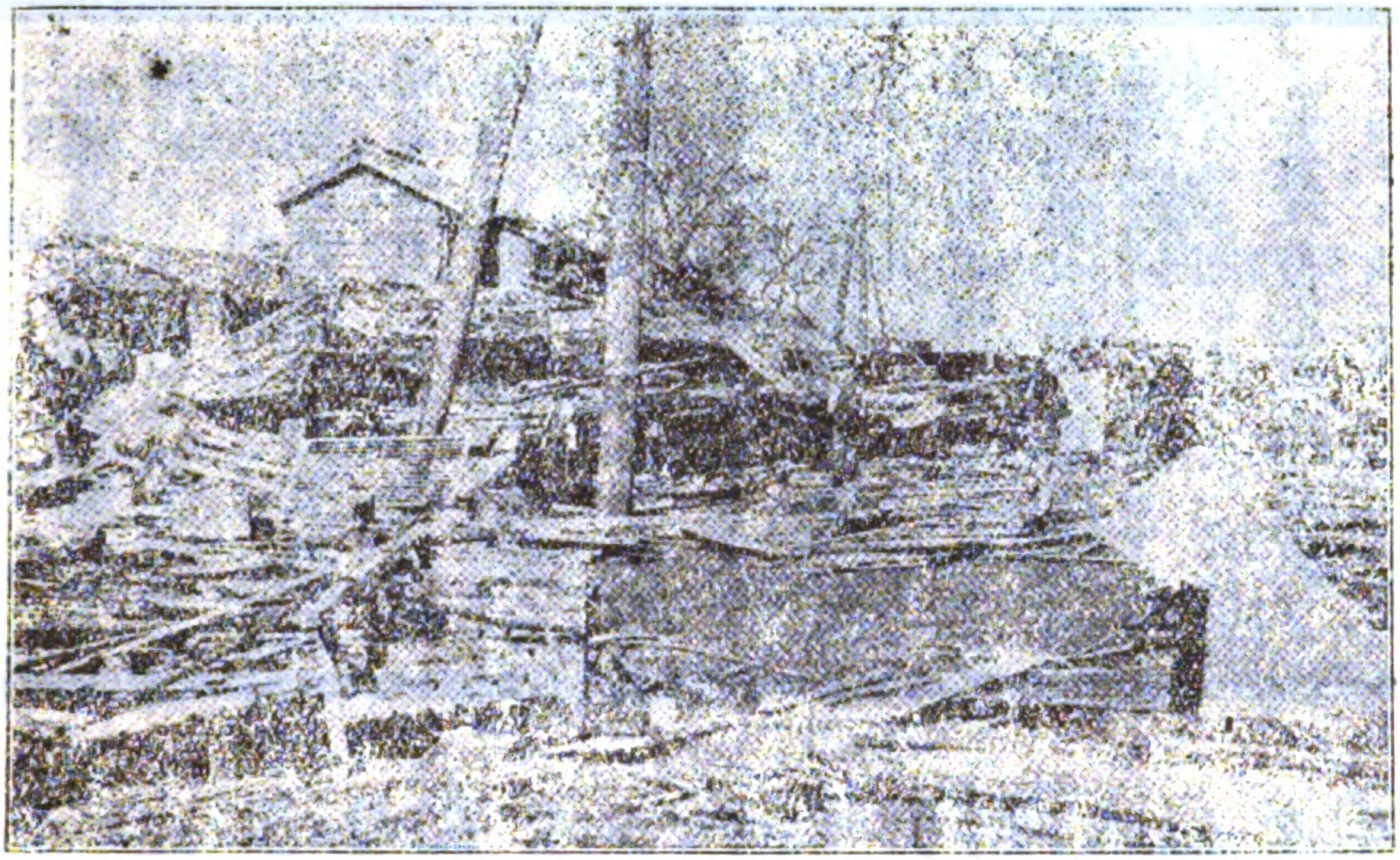
編輯室より

恐ろしい暴風雨でございましたね、御被害の多い所も御ございましたでせう。本部は無事でございました、それでも瓦はいくらか飛ばされましたし、庭の立木が隨分倒れました。街路に植つてある柳の木も餘程倒れました。編輯室からは芝公園がよく見えますが、あすこも隨分樹が折れました。

それにしても、思ひがけない災難がいつ何時やつて來るかわかりませんので、之れに對する覺悟が常日頃から大切であります。しつかりと身體も鍛へ心も練つて置かねばなりますまい。それには充分な運動をし、と云つて、あまり働き過ぎて身體を痛めないやうにし、有益な書物を讀み講演や何かをお聞きになられて心の窓を開かねばなりませぬ。

友愛婦人はそんな事をお助けする爲めに發行してあるのでありますが、此頃では職工諸氏の家庭にも隨分入つて行きます。何卒皆樣も、お友達や知つてゐる方に御廣告をお願ひいたします。(編輯小僧)

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA



小説

暴風雨の後

平澤紫魂

△噫！悲慘

黒い栗に赤い柿、使奴の白兎が搗いたと云傳へられたお團子に秋の七草の風情とり〳〵、黄色な女郎花、紫は桔梗、招く尾花の數も増して東の空に向けて供机を据ゑたのに、十五夜のお月様は憎い雨風に邪魔されて、些しもお顔をお出しにならず、もの足らぬ心持で、むづかる小兒等とも〳〵本意無く床に就いたのであつたが、更ければ更ける程雨風は激しくなり、眠りもやらず、うつら〳〵としてゐると、何事ぞ、ぐらありッ、雨戸を强く擲つたは屋根からけし飛んだ瓦の音か、あゝ電氣が消えた、あッ、立木の折れる音がする。又しても恐ろしい風の唸聲。眼はすつかり冴え切つて、活きた空もなくおど〳〵してゐると、夜中の三時もく〳〵と疊がもち上る。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

そら出水だ！わつと小供等が泣き出す。

「助けてえ」

すさまじい暴風雨に混つて、きれ〴〵の叫聲が何所からとも無く聞えて來た。

大正六年十月一日の午前三時頃、陰暦八月十五夜の晩に、東京は近頃に無い大暴風雨に襲はれた。

一夜にして水と風とに家を奪れたは數萬人、中には跡形も無く流れ去つた家もある。見る影も無く打壊れた家もある。家の中で壓殺された人、波で溺れた人、それも數知れず。良人は工場で徹夜業をやつてゐる留守に四人の子供を抱へて途方に暮れ、漸く三人迄は救ひ出したが、殘る一人と共に自分も儚い死様をしたお内儀さんもあつた。夫の警部が暴風雨の警戒に出掛けた後、兩人の子供と水に流された奥さんもあつた。一家族十三人悉く浪に淩はれたもあれば、六名の家族を一人殘らず殺されて、ぼツと氣を失つてゐる主人もあつた。母親に死なれて狂人になつた娘、子供等に先立たれてうろ〳〵してゐる老人、どちらを見ても可哀相で無いものは無い。

一日の朝、月島は相生橋の橋袂には七人の人間が枕を並べて寄眠れになつて死んでゐた。道の中央には打壊れた建具やら疊やら、雜多のものが小山のやうに積まれてある。水道は壊れて水は無い。飯にするにも米が無い。身體は綿のやうに勞れてゐるし、後仕末をするにしても何所から手をつけて見やうもなし、恐ろしい暴風雨の後を見ながら、月島の住民はぼんやりと、魂を無くした人間のやうに一日を過して仕舞つた。

空は人間社會の悲しみを他所にして、暴風雨の後の靜かさよ、日は暮れたが、西の空は澄み渡つて、遠く富士の高嶺がはつきりと見える。東の海の上にはいつの間にやら十六夜の月が昇つて、白から銀色に輝き勝つてゆく、五片六片漂つてゐる雲はひたツと止まつて小動ぎもしない。

「まあ　おみねさん！」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「あら、きいちやん！」
海際の、半分毀れた防破堤の蔭に出合頭の兩人の娘が、犇と手を取合つたが、兩人の眼には涙が一ぱいたまつてゐた。
「あんたのおつかちやんがね、まあ飛んでも無い。」
「私、ひ、ひ、獨法師になつたのよ。」
「私の兄さんもね、」
「まあ！」
「何所へ行つたかわからないのよ。」
「什麽しませう！」
「おみねさん」
「きいちやん」
後は言葉が無く、兩人は叉手をしつかり握り合つて、人前も何も介はず、わつとばかりに泣き合ふのであつた。

△勘當した子ぢや

其哀れ深い有樣を二階から凝乎と見下してゐたお喜代は思はず貰ひ泣きをして、
「あなた」と、おろ〳〵聲で夫を呼んだ。
夫の玄貞は、五十近い半白の老人である。仰いで月の空を見てゐたが、默つて呼ばれた方を向く。
『あなた、あの娘達も肉身の人に死なれたつて云つてゐます。
「ふむ」と玄貞は頷いて、娘等の有樣を見た。
だん〳〵と夜が、此暴風雨の後の街に迫つて來た、暫時經つと、さめ〴〵と泣き合ひながら、娘達はしゆ〳〵と立去つた。
「可哀相ぢやのう」と、玄貞
「大島や砂村の方は未だひどいと云ふお話です。」とお喜代。
「洲崎でも隨分死んだ相ぢや、お〻燈火がつかん、まるでつかんわ。」と、平常ならば不夜城の名に背かず、宵を欺くやうに輝いた洲崎の廓を見て、玄貞は吐息のやうな聲で云つた。
「眞實にねえ」とお喜代もしみ〴〵と云つた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

兩人は又おし默つて仕舞つた。

すつかり夜になつた。月の光は美しく輝いて、海は何事もなかつたやうに、きら〳〵波を煌かしてゐる

玄貞は海を見た。偉大な自然の力よ！、人は恐れ悲しみ泣いてゐるのに、月は常のやうに輝き、波は常のやうに唄つてゐると、玄貞は思つた。

「あなた」と、お喜代は又夫を呼んで、

「本所の方は如何でせう

「さあ、多少の被害はあつたぢやらう。」

「あなた。あの子の宅は如何でせう。」と、お喜代は憚るやうな眼で夫を見た

「あの子」と、玄貞は聞き返して、

「三郎の事か。」

「はい。」

「捨て置け、勘當した子ぢや。」

夫は左樣云ふだらうと思つて心配した事を、其通り夫は云つた。お喜代は今更のやうにはッとしながら、「でもあなた」と、微かに云つた。

「何ぢや」

「場合が場合故、いくら勘當なさつた子でも子供は子供に違ひありませんもの、せめて他處ながらでも樣子を見て來とうございます」とお喜代は子を心配する親心で思ひ切つて云つた。

「それが母親の愛情と云ふものぢや、其お前の甘やかして育てた心が、あの子をあんな道樂者にしたのぢや」と、玄貞は、常に云ふ通りに又云つた。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「でもあなた、あの子は昔の道樂者ぢやありません今ではもう立派な工場の主人……」と云ひかけると
「それではお前、あの子の此頃の有様を知つちよるのか。」と、玄貞は鋭く聞いた。
「いゝえ、はい」と、お喜代はどぎまぎしたが、
「はい、存じません。」
此時、壊れた塀外でがたがたと物音がした。其所には勘當された三郎夫婦が來てゐたのであつた。昨晩の暴風雨で自分の事よりも親達が氣にかゝり、朝早く月島へ三郎は驅けつけたのであつたが、一度は相生橋の壊れた爲めに月島へ渡る事がならず、二度目には來たには來たけれど、勘當された身の顔を合す事の出來ず、朧氣に無事であつたと云ふ事だけを近所の人から聞いてやゝ安心はしたものゝ、すごすごと歸らねばならなかつたが、夜になるのを待ち兼ねて、妻のお鶴を伴れて、他所ながらも御無事なお顔を見たいと歩いて來て、物陰に身を潜めて聞いてゐると計らずも自分の噂、どんな風にお話するかと身をいれて聞いたはづみに力が足に入つた爲め足元の丸太棒が動いて、水の爲め自然に積まれてある流木が崩れたのであつた。
三郎夫婦ははッと驚いて飛除き、思はず顔を見合つたが、二階の兩親が自分達に氣がつかぬとわかると、又窃ッと塀の陰に忍び寄つて、一生懸命聞耳をたてた。

△親心

二階の兩親はそれとは知らず、
「知らぬならば知らぬでよいが、あまり心配すると返つて三郎の爲めにならん」と父親。
「あなた、それではあまりつれない」と思ひますと母親は堪らないやうに急に聲を立てた。
「わしの仕打が惡いと云ふのか」と、玄貞は落着いて聞いた。
「えゝ、世間には暴風雨に子供をとられて狂人になる親達もありますのに、現在同じい所に住んでゐな

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

から、此騒ぎに捨て置けと被仰るは、あまりむごい事ぢやありませぬか。」

「人の親と云ふものはぢや、心を鬼にせねばならない事もあるものぢや」と玄貞はきびしく云つて、

「彼所に流れてゐるは、あれは何ぢや」と言葉を外して、海を指した、月の光を浴びて海中に漂つてゐるもの、大きな黒い品物、見様に依つては人の死體とも思はれる。

「棉包でございます、此先の棉工場がつぶれましたので」と、お喜代は答へた。

「え、、あの棉工場がつぶれた?」

「工場は棟が高い故、外にも隨分壞れた工場があるつて、お話です。」

「左様か、それでは惡くするとあの工場も、南の方が廣場になつてゐるからな、やられたかな。」と、玄貞は思はず呟いた。

「え丶」と、お喜代は夫の顔を見て、

「それではあなた御存じですか」

「何ツ」と、玄貞は氣がついて、

「何を知つとると云ふのぢや。」

「あの子の工場を御存じでせう。」

「いゝや知らん。」

「でも、南の方が廣場だと今被仰つたぢやありませんか。」

「わしよりお前が知つとるんぢやなあ。」

「え」と母親は云ひためらつたが、直ぐきつぱりと

「はい、よく存じてゐます」

玄貞は凝乎と妻の顔を見たが、

「わしも左様ぢやらうと思つてゐた、存じませんなぞと嘘ばかり云へおる。」

「あなたも矢張御存じなのでゐらつしやいませう。」

玄貞は突然。

「はゝゝゝゝゝゝ」と笑つて、

「左様ぢや左様ぢや、知つとる知つとる、わしも嘘吐きぢや」と云つて、又はゝゝゝゝと笑つた。

「あなた、私氣になりますす故一寸行つて來て見たい

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と思ひますが」とお喜代
「待て待て、わしが行く。」と玄貞
「まあ」とお喜代は夫の顔を見て、
「勘當なさつた子に、あなたは逢はれますまい」
「何ぢやと、それはお前も同じぢやないか。」
「いゝえ、勘當なさつたのはあなたで、私はそんな氣ではありません。」
「ん」と、玄貞は眼を丸くして、
「それではお前、わしに隠れて三郎に逢つちよるのぢやなあ。」
「いゝえ、道樂者の三郎には逢ませぬが、貞淑な嫁御が可哀相ですから。それに孫が大きくなりまして、」
「おゝ可愛ゆくなつたぢやらう。」
「此頃ではもうよち〳〵歩くのでございます。」
「左様か左様か」と、玄貞は眼を細くしたが、あまり甘い心を見せたとでも思つたのか、
「馬鹿奴、勘當した奴等の事は什麼でもいゝ。」と云ひ放つた。が、其言葉が又、あまり强過ぎたとでも思つてか、
「災難に逢つた時は又別な問題ぢや、何しろわしが行つて見る。」
「あなたがお出でになつて、お逢へになりますか」
「いゝや逢へはせぬ。」
「では私が行つてまゐります。私ならば逢はれます」
「わしも逢つて來る」と、玄貞は言葉のゆきかゝりで云つたが、直ぐに、
「なあに、逢へはせぬ、逢へはせぬが、何ぢや、道が悪くつて女には行かれぬわ。」
お喜代はわきを向いてくすりと笑つた。强い事を云つてゐても、子供を思ふ親心に二ッは無い。自分で逢へたいもの故、あんな事を云つてゐらつしやると思つた。塀外で話を聞いてゐた三郎夫婦は、滲み出る嬉涙をそつと拭いた。

△自分の心から

「それではあなた。兩人で行つて見ませう私も早く様子を知りとうございます」と、やゝ經つてからお喜代は云つた。
「ふむ、それも左様ぢや」と、玄貞は暫し考へたが
「お喜代」と、改つて、此頃には珍らしく妻の名を呼んだ。お喜代は訝しく、
「はい」と返事をする。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「わしはお前に話さねばならない事がある。」

「へえ、三郎の事でございますか。」

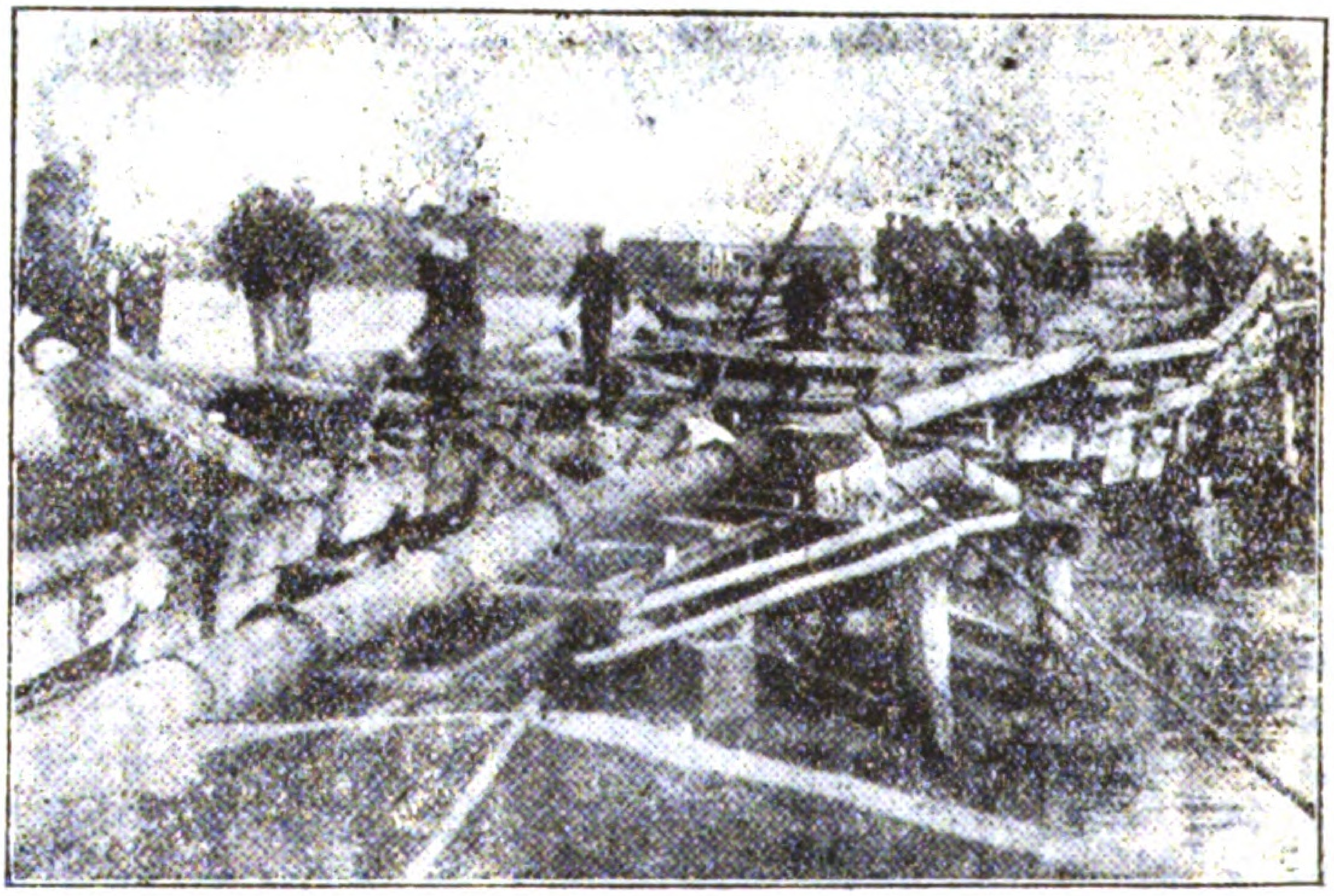
「それに就いての話ぢや、其話をする前にぢや、之れはお前にも隱して置いた事だがいろ／＼云て置かねばならぬ事がある。」

「それも矢張三郎の事でございますか。」

「左樣ぢや、お前は何故あ道樂者の三郎が、見違ひる程立派な人間になつたか、知つてお るか。」

「へえ」と不思議な事をお聞きになると思つてお喜代は又夫の顏を見た。

「それはね、あの子が自分から物事をやらうと云ふ氣になつたからぢや、自分から物事をやらうと云ふ心が人間には一番大切な事ぢや、何故又三郎が自分から物事をやらうと云ふ氣になつたか、お前は知ちよるか。」



「はい、それは貴郎が御勘當なさつたからでせう。」

「左樣ぢや、それでわしが何故三郎を勘當したかわかつたね。それで、三郎が何故立派な工場を持つやうになつたか知つちよるか。」

「それはあの子が、自分から物事をやらうとしたからではありませんか。」

「そればかりではない。お前には隱して置いたが、わしは常に三郎の事業を見て居つて、陰で三郎の事業の成功する事に心を籠めてゐた。三郎が鐵の高くなつて事業を中止しやうとした時に安い鐵を賣つた人間がある。それはわしが左樣さしたのぢや

「えゝッ」とお喜代は吃驚した

下で忍び聞いてゐた三郎は更に吃驚した。さては、あの時好運だとばかり思つたの

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

が、矢張父の慈悲であつたのか。有難いと思つて、思はず父に向つて手を合せた。
「左樣云ふ風にしてね、わしは三郎の事業を助けてゐたが、三郎も非常に勇氣を出したと見えて、近頃なか〳〵の人物になりおつたわ。」と云つて、
「はツはツはツ」と玄貞は笑つた。
「で、ねえ」と、更に言葉を次いで、
「此場合、之れを機會にして三郎に家督を讓つて仕舞ふかと思ふ。」
「えゝツ」とお喜代は夢かとばかりに喜んだ。
「まあ有難うございます、あの子が聞いたらどのやうに喜ぶでせう。」
「然しぢや、財産は些しもやらないのぢやよ。」
「へえ」と、お喜代は又吃驚して、
「それは又什麼したわけであります。」
「わしの財産はみんな、今度の水難で苦しんでゐる人を助けるのぢや。」
「…………………。でも、それぢやあまりあの子が可哀相ではありませんか。」
「左樣ぢや無い。三郎は必ず喜ぶ、それに又三郎がわしの財産を欲いと思ふやうな心では、わしにいつ迄も勘當を許しはせぬ。」
「でも、それではあまりあの子が可哀相でございます。」と、お喜代は又繰返して云つた。
「可哀相なのは不慮の災害に逢つた人達ぢや、其人達の爲めにはわしの財産を百倍にしても足らぬ位ぢや、慈善と云ふものは人の心を卑屈にして、自分から物事をやらうとする心を無くするからわしは嫌ひぢやが、こんな場合にこそ眞實の慈善を爲さねばならぬ。」
「でも、それではあの子が可哀相でございます」とお喜代は外の事は何事も耳に入らず、それはかり繰り返して云つた。
此時、突然梯子段から現はれて、兩親の前にぴたりと手をついた男があつた。見るとそれはいつの間にか二階に昇つた三郎である。
三郎は兩親の前にきちんと手をつかへて、
「いろ〳〵と御心配をかけ誠に申譯がありません、阿母さん、阿父樣の被仰る事は全く御尤でございます、阿母さんが私の爲めに思つて下さるのは、眞實に有難うございますが、私はたゞ御勘當だけ許して戴けばもう外に何事も望みはありません。」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

「左様ぢやとも左様ぢやとも」と父親は喜んで、「それでこそ、男の子ぢや」と小さな子供にでも云ふやうな事を云ふ。

母親は何を云ふにも涙が先

「お前それで誰も怪我は無かつたかい、工場も大丈夫かい、宅には水がどの位入つたね、衣類など濡さなかつたかい。小兒が嘸吃驚して泣いたらうねえ」と、伜の顔を見たので心配してゐた事を、みんな度々聞いた。

「はい有難うございます、お陰様で、私よりも阿父様や阿母様が什麼なさいましたと思ひまして。」

「宅の方は大丈夫だよ、おゝ嫁御も來て居るのでは無いか

「はい」と、梯子段にゐた三郎の女房のお鶴はもうほろり〳〵と泣いてゐたが、姑に優しい言葉をかけられたので、わつと泣き出した。三郎は振返つて、

「何だ、什麼したのだ。」

「久し振りぢやたから嬉しかつたのぢや」と父親は笑つて、

「さあこつちへお出で、此暴風雨で氣の毒な人は大勢出來たが、自宅では今迄の事をみんな暴風雨に流して之れからは平和に暮さう。」

「でもお前」と、姑は嫁に向つて、氣の毒氣に、

「自宅の財産はね、みんな水で困る人に差上げるんだつてね、お前達には氣の毒だね。」

「はゝゝゝゝ」と、父親は相變らず笑つて、

「其代り、三郎は何事も自分の力でやると云ふ寶物が出來た。此寶物はどんな財産でもこしらふは。見ろ三郎の腕を、什麼ぢや立派なものぢやらうハッハ、ゝゝゝゝゝゝ。」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

婦人部便り

◎葺合支部會員個人消息

婦人會員久保鶴江さんは今度ダンロップ護謨會社にて檢査場の責任者となられました。

◎友愛會婦人部の新役員

川崎支部

委員　西島セン　吉川フサ　飯シユン

荏原支部

委員　葛岡タツ

左の方々は新らしく會員になられました、皆樣に歡迎して戴きます。

常盤支部（二十二名）

荒川ツル　中野フジ　須田ワキ　佐藤カツノ　佐々木クニ　日野ウメノ　曾野クラヨ
武藤ハルエ　加藤トマ　金澤キク　大野ミヨキ　横山シマ　佐藤ヒサ　蒲生ツヨノ
龜谷ミヨシ　佐藤ヨキ　面川サワ　小松イセノ　清野チヨウ　牧ムメ　一家ヤス

葺合支部（六名）

畑中キク　石井キク子　貫名美子　東中五枝　久保鶴江　副島靜枝　山下トミ子

荏原支部（五名）

町田チウ　大場キクエ　石崎リヨウ　津田トヨ　水田モト

本芝支部（三名）

篠田春子　木村スユ　小室ソメ

長倉支部（三名）

三瓶ハナ　平山ツルヨ　石川マツ

磐城支部（一名）

三島ツナヨ

目黑支部（一名）

田村ツネ子

澁谷支部（一名）

金安タマ

神奈川支部（一名）

森岡シン

川崎支部（九名）

石井幾久　吉川フサ　土志田ツギ　鈴木スエ　佐藤ミヨシ　加賀カネコ　安信トヨ　此田タワリ　中田サミ

娯樂室

今月から娯樂室をこしらへました。面白い事おかしい事をどし〳〵投書して下さい。

▽一口ばなし

お母さん下駄を間違つて來た春子さんに向つて、

母「春ちやんどこで下駄を間違えたの」

春子「お湯屋よ」

母「どこのお湯屋なの」

春子「下駄を間違へたお湯屋なのよ。」（保土ケ谷　藤川時江）

□懸賞モノはづけ

皆樣、世の中で一番黑いものは何でせう、おもしろいお答ひをして下さい。よく出來た方はに賞品をあげます。締切十日（記者）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

月刊雑誌『友愛婦人』

▲代金は總て前金を申受ます。

▲御送金は振替貯金、郵便切手代用の三種ある。

▲振替貯金は尤も簡便確實であります。

▲拂込用紙は郵便局で無代で呉れます。

▲振替貯金の口座番號は東京三一五七

▲郵便の爲替の時は『受取人宿所氏名指定欄』に東京芝區友愛會本部と御書き下さい。

▲切手代用は一割増の事。

▲着金の時は直ちに送本し別に受領證を出しません。

▲御送金の報知、註文、問合は會計部宛に願ひます。

▲御轉居の時は新舊兩方の住所を御書き下さい。

定價

冊數	定價	郵稅	合計
一冊	十錢	五厘	十錢五厘
半ヶ年分 六冊	六十錢	無料	六十錢
一ヶ年分 十二冊	一圓十錢	無料	一圓十錢

廣告料

等級	一頁	半頁	四半頁
特等	三十圓		
一等	二十五圓	十七圓	九圓
二等	二十圓	十三圓	七圓
三等	十五圓	九圓	五圓

大正六年十一月號

大正六年十一月一日　毎月一回發行【十一月號】

發行兼編輯人　東京市芝區三田四國町二番地　坂本正雄

印刷人　東京市赤坂區田町七丁目三番地　小野寺豊彦

印刷所　東京市赤坂區田町七丁目三番地　三洲舍

不許複製

發行所　東京市芝區三田四國町二番地　友愛會本部

振替東京三一五七　電話芝五八五五

發賣所　◎東京堂　◎良明堂　◎同文館　◎東海堂　◎北隆館　◎文影堂

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

友愛會會長 法學士 **鈴木文治** 著

勞働叢書 第一編

工場法釋義

全一冊美本 定價十五錢 郵税金二錢

昨年から實施になつた**工場法は何人でも心得て居らねばならぬ**ものだが、中にも工場の中に於て働いて居られる方はよく之を心得て居れば大變便利であります、工場法實施以來、其說明の本は隨分澤山出來ましたが、本書の如く**定價が安價く文字がわかり易くて、簡單に便利に出來**て居るものは他にございません。そして働く人々の立場から解釋し說明致してありますから、友愛婦人の讀者にとつては眞に大切な本であります、**十冊以上の申込は割引**があります。

發行所 東京市芝三田四國町二 友愛會本部
(振替東京二一五七)

大正六年六月二十八日(第三種郵便物認可)
大正六年十月二十七日印刷納本(十一月號)(毎月一回一日發行)
『友愛婦人』第十一號 定價金十錢 郵税一錢

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA